

令和2年12月8日

1. 出席議員

議長 山口 昌 宏
1 番 坂 口 正 勝
3 番 猪 村 利恵子
6 番 吉 原 新 司
8 番 古 川 盛 義
11 番 松 尾 陽 輔
13 番 石 橋 敏 伸
15 番 松 尾 初 秋
18 番 牟 田 勝 浩
20 番 江 原 一 雄

副議長 末 藤 正 幸
2 番 豊 村 貴 司
5 番 江 口 康 成
7 番 上 田 雄 一
9 番 吉 川 里 己
12 番 池 田 大 生
14 番 宮 本 栄 八
17 番 川 原 千 秋
19 番 杉 原 豊 喜

2. 欠席議員

なし

3. 本会議に出席した事務局職員

事務局 長 川久保 和 幸
次 長 山 口 美矢子
議事係 長 奥 幹 久
議事係 員 田 中 弘 一
総務係 員 岩 本 英 則

4. 地方自治法第121条により出席した者

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|-----|
| 市 | | 長 | 小 | 松 | | 政 |
| 副 | 市 | 長 | 北 | 川 | 政 | 次 |
| 教 | 育 | 長 | 松 | 尾 | 文 | 雄 |
| 総 | 務 | 部 | 山 | 崎 | 正 | 和 |
| 総 | 務 | 部 | 諸 | 岡 | 利 | 幸 |
| 企 | 画 | 部 | 庭 | 木 | | 淳 |
| 営 | 業 | 部 | 古 | 賀 | 龍 | 一 郎 |
| 営 | 業 | 部 | 山 | 口 | 智 | 幸 |
| 福 | 祉 | 部 | 松 | 尾 | | 徹 |
| こ | ど | も | 牟 | 田 | 由 | 紀 子 |
| こ | ど | も | 永 | 尾 | 淳 | 一 |
| ま | ち | づ | 野 | 口 | 和 | 信 |
| 環 | 境 | 部 | 高 | 倉 | 秀 | 昭 |
| 総 | 務 | 課 | 後 | 藤 | 英 | 明 |
| 企 | 画 | 政 | 松 | 尾 | 謙 | 一 |
| 財 | 政 | 課 | 弦 | 卷 | 一 | 寿 |

議 事 日 程 第 2 号

12月8日（火）9時開議

日程第1 市政事務に対する一般質問

令和2年12月武雄市議会定例会一般質問通告書

| 順番 | 議 員 名 | 質 問 要 旨 |
|----|---------|--|
| 1 | 2 豊村貴司 | 1. コロナ禍における行政改革 1) 行政改革 2) デジタル化の推進 2. 災害対応 1) 障がい者の避難 2) 備品管理 3. 武雄市の活性化 1) 新幹線開業 2) ハブ都市を目指して 3) 武雄の未来像について |
| 2 | 18 牟田勝浩 | 1. 新幹線等ハブ都市について 2. 情報発信について 3. 地域保全について 4. コロナ対策について |
| 3 | 6 吉原新司 | 1. 市政について 1) 災害への備えについて 2) 環境について |

開 議 9 時

○議長（山口昌宏君）

皆さんおはようございます。休会前に引き続き本日の会議を開きます。

日程に基づき、市政事務に対する一般質問を開始いたします。

一般質問は、9名の議員から28項目について通告がなされております。

質問の方法、時間につきましては、議会運営委員長の報告のとおりでございます。

議事の進行につきましては、特に協力をお願いいたします。

また、執行部の答弁につきましても、簡潔でかつ的確な答弁をお願いいたします。

それでは、最初に2番豊村議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。2番豊村議

員

○2番（豊村貴司君）〔登壇〕

（全般モニター使用）皆さんおはようございます。議長より登壇の許可をいただきましたので、2番豊村貴司、一般質問を始めます。

まず、日本全体として、新型コロナウイルス感染症の第3波と言われている中、医療現場で従事されている皆さん、また、高齢者施設など介護の現場でも自らの感染にも気をつけながら従事されている皆さん、そして、感染拡大を防ぐために、会社、また、自らも感染予防に努められている皆さんに感謝いたしますとともに、地域における医療崩壊が起こらないよう経済活動を行いながらも社会全体として感染拡大防止を意識していかなければならないと思います。

執行部においては、公的機関の要として、業務が止まることのないよう今後もよろしくお願いいたします。

今回は、大きく3つの項目について質問を行います。

それでは、時間も限られていますので、最初の項目、コロナ禍における行政改革について、入ります。

武雄市として、また、全国的にもこれまでコロナ禍において支援制度や業務の工夫など、短期間の中で様々、行政として取り組んでこられました。

この前の9月議会の一般質問では、行政としての感染対策について、窓口対応のことなどについて質問を行ったところです。

現在も、コロナ対策としての各種申請対応や新たな事業の取組、また、通常業務においても、その業務を止めることができないことから、様々感染対策を意識しながら努力されています。

しかし、その中で課題となるところもあったと思います。私も申請について、その申請のしやすさ、難しさについての声を伺ったり、様々な取組についての情報の取得について声を伺ったりもしました。

そこで、最初の質問です。

全国的にもコロナ禍において行政運営の課題が取り上げられています。武雄市としてもコロナ禍において、行政としての対応に課題となるところがあったと思いますが、どのような点が課題として挙げられるか、この点についてまず答弁をお願いいたします。

○議長（山口昌宏君）

山崎総務部長

○山崎総務部長〔登壇〕

おはようございます。全国的な傾向といたしましては、新型コロナウイルス感染症対策に対して、新型コロナウイルス感染症対応地方創世臨時交付金の活用と、不足する分について

は財政調整基金等の取崩しにより対策事業を行っている状況にあります。

そういうことから、財政的に余裕がなくなっている自治体もあると聞いております。

また、感染症対策におきましては、職員の出勤者数の調整を行ったり、庁舎内で感染症が発生した自治体では一時的に庁舎を閉鎖するなど、行政運営に支障が出ているところもあるというような状況にあります。

武雄市におきましては、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金などを有効に活用し、感染拡大防止対策や新型コロナウイルス感染症の影響により疲弊している市内経済の活性化に向けた各種事業を行っているところであります。

また、市民サービスの維持の観点から、職場での密を避け、事業継続計画の作成や庁舎内出勤者数を減らし、在宅勤務や庁内テレワークを実施しているところであります。

通常業務を行いながら新型コロナウイルス感染症対策も行っている状況にあるため、全体としては業務量が増えている状況にあり、市民サービスにおきましては、3密を避けるため、会議を開催する際はオンライン会議を実施しているところでありますが、一部会議におきましては、参加人数の調整や分散、回数を分けて行っている状況にあり、また、各種手続等の郵送による申請の受付を行っておりますが、日数、時間を要している状況にあり、一部、非効率的な対応を取らざるを得ない状況になっております。

○議長（山口昌宏君）

2番豊村議員

○2番（豊村貴司君）〔登壇〕

今、答弁いただきましたように、財政的なこと、職員さんの出勤の調整、場合によっては、全国的にも、言われたように窓口業務を止めないといけないことがあったりと、武雄市においても、やはりいろんな――新型コロナウイルスの感染症拡大防止について、新しい生活様式ということが言われていますが、それは行政においても同じかなと思います。

そういった点から、先ほど答弁もありましたように、業務量が増えていたりとか、場合によっては非効率的なところがあったりと、そういうことがどうしても生じてしまっているところもあるのかなと思います。

そういう中で、全国的には自治体が民間と連携をしたりとか、そういった動きもあっています。

例えばスーパー等がない地域へのキッチンカーでの移動販売を、市と移動販売協会が事業連携した取組や、感染拡大を防ぐための自宅待機対象者が、家庭の事情で自宅待機が困難な場合に、市と旅館組合が連携して行う官民一体型宿泊プランに取り組まれているところ。

神戸市では、全区役所の窓口業務について、職員負担軽減や来庁者の満足向上のために、民間企業のシステム開発と連携したりと、こういった形で全国的に行政と民間が連携をしている、そういった動きが出ています。民間としても会社自体も守っていかないといけないで

すし、いろんなシステム開発とかにも取り組まれています。

もちろん、武雄市においてもこれまでもいろんな連携があつて、例えば現在も 12 月末までの取組としては、タクシー会社と連携したタクシー買物代行サービスですね。

これが 12 月末まで、予算がある分、延長して行われているというのもあります。

私も、過去にも、やはり民間との連携、民間活力をうまく活用するという、そういったことも大事だということも、これまでも一般質問で取り上げてきました。

武雄市は新型コロナウイルス感染症以前も、例えば市民病院の民間委譲であつたりとか、図書館の指定管理であつたりとか、そういった形で取り組んで、多くの満足を得られている状況にもあります。

そこで、先ほどの答弁においていろんな課題がありました。

やはり行政の中で取り組もうとするところ、なかなか限界があつたりすると思いますし、ほかの業務に圧迫したりという現状もあつたりするんじゃないかなと思います。

そういった点では、武雄市においても行政運営、行政サービスにおいて、民間との連携、場合によっては、民間に任せられる部分は民間に委託するなど、官民がうまく連携することで、より質の高い行政運営を行うための改革も必要になってくるのではないかなと思います。この点について答弁をお願いいたします。

○議長（山口昌宏君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

おはようございます。やはり、先ほど議員が御指摘のとおり、質の高い行政運営をするという点では、ものによっては行政だけでやるのが一番、資することもあるかもしれませんが、民間との連携、そして官民協働、ここは特別なものではなくて手法として、私たちも当然、当たり前ものとして考えていかなければならないと思っております。

御指摘のとおり、これまでも図書館の指定管理、保育所や病院の民営化と、そういったような形で民間力の活用というところは進めてきました。

行政改革の目的は、市民の一人一人の幸せをつくるということだと思っております。そのために、時代に合わせた行政サービスにしていくということだと思っております。

これから、新型コロナウイルス感染症に加えて人口減少、少子高齢化、行政のスリム化の要請と、あるいは交付税も減ってくると思います。そういう中で災害が多発したり、サービスも多様化してくるという中では、やはり行政だけで、市役所だけで全てをやるのはどだい無理な話であると思っておりますので、そこについては、現在、策定中の第 4 次武雄市行政改革プランもそうですし、令和 3 年度の予算編成であつたり、先般の武雄市行政改革推進本部会議でも、民間力の活用を積極的にするように、私からも指示しているところでもありますので、ぜひこれは特別なことではなく、当たり前の発想として今後も取り組んでまいりたい

と考えております。

○議長（山口昌宏君）

2番豊村議員

○2番（豊村貴司君）〔登壇〕

市長が言われましたように、時代の変化の中で、そして、今後の人口減少社会の中で、やはり、当たり前を取組、考える視点として、私もあると思います。

一番は、言われたように、市民サービスの向上、そこにつながるように、あくまでも質の確保をしながら、また、質を高めるためにいい連携等ができていけばと思います。

それでは、次の項目に行きます。

コロナ禍における行政改革の次ですね、デジタル化の推進です。

業務・コンビニ交付としていますが、平成30年6月議会の一般質問でも、業務におけるITの活用について質問を行いました。

市長はそのとき答弁で、市民サービスの向上、業務の効率化、この意識を持って、ITをどう使うかというところをふだんの業務から認識をして、そして、必要なものは改善していくと、そういう姿勢で、ぜひ取り組んでまいりたいと考えておりますと言われました。

また、そのときにも触れましたが、RPAというのがあります。

簡単に言いますと、定型業務、いわゆる一連の流れに沿って行われる決まった業務については、ITの技術によってコンピューターが自動的に処理してくれる、こういったRPAと言われる部分についても質問に取り上げました。

その際の部長答弁としては、市民サービスの向上、また、職員への負担軽減等も十分考慮した上で、これについては検討していく必要があると考えておりますと言われました。

先ほどの質問の答弁でも、やはり職員の負担とか効率化とかというところもありましたが、このときの質問から2年が過ぎていますが、現在は、このコロナ禍において、今年9月23日の総理の発言として、新型コロナウイルス感染症への対応において、国や自治体のデジタル化の遅れや人材不足、不十分なシステム連携に伴う行政の非効率、煩雑な手続や給付の遅れなど、住民サービスの劣化、民間や社会におけるデジタル化の遅れなど、デジタル化について様々な課題が明らかになりましたとしまして、国としてデジタル化の推進に取り組むとされています。

武雄市議会でも以前質問したときの答弁を含め、現在のコロナ禍において、行政改革としてデジタル化の推進、ここは大事なポイントになってくると思います。

この点について、どのように取り組んでいるか答弁願いますとともに、前回の9月議会で、デジタル化というところに併せまして、証明書のコンビニ交付について質問を行いました。これもいつ導入となるのか、併せて答弁をお願いいたします。

○議長（山口昌宏君）

庭木企画部長

○庭木企画部長〔登壇〕

おはようございます。

まず最初に、これまでの武雄市の取組といたしまして、本庁舎窓口におきまして、平成30年7月から手数料の支払いに交通系ICカードでの使用を開始しております。

さらに、本年9月議会におきましてお諮りいただきました住民票のコンビニ交付につきましては、来年度中にサービスが開始できるよう準備を進めるところでございます。

市役所業務におけるデジタル化につきましては、本年、コロナ禍の業務継続計画に伴いまして、職員が効率的にリモートワークができるようシステム構築をしております、年内に開始できる見込みでございます。

今後のデジタル化の方向性についてでございますが、多種のニーズによります業務量の増大、職員数の減少という課題に対応するための定型業務へのRPA導入を含め、住民サービスの維持や充実、職員の働き方改革や事務の効率を図るための施策に取り組んでまいります。

○議長（山口昌宏君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

今、RPAの導入という話が出たので、私から考え方を話したいと思っています。

RPAの導入というのは、私はまず、有効であるという認識であります。

ただ、やはりそこで大事なのは、RPAが目的化するのはいくつかと。

ある自治体では——ほかの自治体のことを言うのもあれなんですけれども——とにかく導入するぞということで、その結果、それに関連する業務があまりに膨大になって通常業務が停滞したというようなことも聞いていますので、一つは、目的化するのはいくつかと思っています。

あわせて、今の業務を見直すことなしに、そのままRPA化するというのは、私はどうかなと思っています、やはり業務の見直しをしっかりとした上でRPA化に流れをつくっていくというのが適当だろうと。

言ってみたら、行政の手のオンライン化ですね、オンライン化をするために、まずは判この見直しからやろうというふうな考えが大事だと思っています。

ちょうどコロナ禍でリモートワークや庁内テレワークなどを進めてきた中で、業務の見直しを各部しっかりとするという指示も出してございまして、随時、見直しも進んでおりますので、それを前提に、その上で市としてどういう部分にRPAが導入できるかというところの検討に入っていきたいと考えております。

○議長（山口昌宏君）

2番豊村議員

○2番（豊村貴司君）〔登壇〕

言われましたように、あくまでも手段としてそれを導入することによって、どう効率がよくなるか、また、今ある課題に対応できるかというところ。そして、前の答弁でもありましたけれども、市民サービスの向上につながるという視点で検討をと思います。

コンビニ交付については来年度中、システム構築については年内という形で言われましたが、ということでもよろしいですか。年内ってもうあと何日しかないですけども。

ということで、そういった取組が全体としての効率化、市民サービスの向上につながるようと思います。

続きまして、デジタル化の推進というところを考えると様々、いろんな分野があります。

その中で一つ具体的なことを取り上げますが、情報を発信する手段として、紙によるチラシがあります。武雄市においても、観光協会も含めて様々なチラシがあって、観光面においてもイベントの案内など、多くの情報発信がチラシによって、紙媒体でされているところだす。

市役所に行っても、棚であったりとかロッカーですかね、カウンターの上にはずらっと並べてあったりとか、そういうのを目にします。

やはり、このデジタル化を推進するという中で、社会的にもチラシを電子化する動きというのも出ています。

紙媒体広告のメリットもありますが、やはりデメリットもあるというところで、修正の難しさや情報拡散力、マーケティング戦略としての活用、また、訴求力などから、デジタル広告の必要性が言われたりしているところです。

そこで質問ですが、武雄市においても、先ほど言いましたように、紙媒体でのチラシ、様々あると思いますが、その中で一つ観光に関する部分で、観光パンフレット、チラシは年間で何種類ぐらい作られているのでしょうか。また、そのコストと効果をどのように捉えているか答弁願います。

そして、先ほど言いましたように、紙媒体のメリットという部分もありますので、紙媒体での情報発信が全て駄目とは、私はもちろん思っていないんですが、こういった部分をデジタル化していく試みというの、もちろん必要だと思っています。

現在のコスト的な部分、デジタル化推進という部分についてどのように考えるか、答弁をお願いいたします。

○議長（山口昌宏君）

古賀営業部長

○古賀営業部長〔登壇〕

おはようございます。モニターをお願いいたします。

（モニター使用）まず、議員御質問1番目の観光に関するパンフレットでございますが、

現在、まちあるきやオルレ、タケさんぽなどの、いわゆる市内の観光客向けのパンフレットが4種類、それと、市内の見所や四季、シーズンなどを御紹介しました誘客向けの発信型のパンフレットが3種類、合計7種類のパンフレットを御準備しております。

このコストでございますが、パンフレットにつきましては、なくなり次第、少なくなり次第、印刷、増刷を行っております。令和2年度におきましては、年間でこの印刷等にかかりました費用が約300万円でございます。

効果についてでございますが、実際に各旅館、観光施設、駅、公共施設等に置かせていただいておりますが、観光客のお客様のほうが手に取っていただいております。誘客、その他市内の周遊につながっているものと考えているところでございます。

今後の観光情報の発信、デジタル化についてでございますが、先ほどからありました、新しい生活様式の一環という部分を見ましても、また、自宅にしながら観光情報等が手に入られるということもございますので、これにつきましては積極的にやっていきたいと思っております。

現在、この観光パンフレットにつきましても、一部を除きましては既にデータ化をしております。パソコンやタブレット等で確認することもできますが、全てのパンフレットに対しましても早急に対応をしていきたいと考えております。

○議長（山口昌宏君）

2番豊村議員

○2番（豊村貴司君）〔登壇〕

交流人口を増やしていくということをハブ都市として考えたときに、やはりデジタル化というところは絶対的に必要だと思います。

もちろん紙は手に取って見やすい、また、情報の一貫性の高さや互換性、いろんなことがメリットとも言われていますが、デジタル化ももちろん取り組んでいかないといけないところ。

民間において、やはり観光に限らず、いろんな形でこういった情報発信、広告等がされています。そういったいろんな民間の動きも参考にしながら、ぜひ取り組んでいただきたいなと思います。

例えば今言われたこの紙のパンフレット、インターネットでも見れるようにしてありますが、そのままの形で載せたほうが果たしていいのか、インターネット上で載せたときにですね。

より見やすい、分かりやすい、そこに行きやすい、また、情報として引っかけやすい形がどうであるかというのも、そこも考えて、ぜひ推進していただきたいなと思います。

それでは、次に行きます。

2番目の大項目、災害対応についていきます。

(1) としまして、障がい者の避難について。

まず、今年の10月、台風10号がありました。お店からは養生テープが消えて、パンやミネラルウォーターもない、カセットガスもない、どこにもないという状況でした。

県内では公共機関が閉庁したり、窓口を休止したりと、かつてない厳戒態勢で、それに伴って避難される方、初めて避難したという方も本当に多くいらっしゃいました。

そこで質問ですが、ここに挙げていますように、障がい者の避難としております。

今回の台風10号によって避難された方のうち、障害を持たれている方の人数についてどのように把握されているか、指定避難場所及び指定避難所以外についても、市としてどう把握されているか、答弁をお願いいたします。

○議長（山口昌宏君）

諸岡総務部理事

○諸岡総務部理事〔登壇〕

おはようございます。今、議員御質問の障害をお持ちの方々の避難の把握の状況、それと台風10号の際の状況ということでございます。

まず、把握の方法につきましては、避難をされた避難所、開設をした避難所に避難をされた方、その避難所から災害対策本部へ届けられる避難者受付名簿で把握をしている状況でございます。

また、台風10号での市民の方々の避難の状況でございますが、1,440名ありました。

そのうち、避難者名簿で確認が取れております障害をお持ちの方の避難者数は、指定避難所等に40名、福祉避難所に3名、合計43名の方が避難され、全体避難者に対する割合は約3%の状況でありました。

○議長（山口昌宏君）

2番豊村議員

○2番（豊村貴司君）〔登壇〕

今、数字を言っていただきました。多い、少ないということではなくて、この数字というのを、数字が表すことといいいますか、この数字を背景に、市長はどのように考えられますか。

○議長（山口昌宏君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

今回、台風10号のときに限らず、やはり、障害があるなしにかかわらず、避難をしたいと、しなければならないという方が、まず、滞りなく避難できるような環境が必要でしょうし、特に障害をお持ちの方は移動とかもかなり大変だと思います。

そして、障害を持っておられる方は、避難所においても様々な面で苦勞もあると思いますので、障害をお持ちの方が滞りなく避難ができる環境というのを私たちはつくっていく必要

があると考えております。

○議長（山口昌宏君）

2番豊村議員

○2番（豊村貴司君）〔登壇〕

この数字が、先ほど言いましたように、多い、少ないという形では言えないと思うんですが、これは考え方次第というところもありますが。

ただ、やはりこの数字の背景にどういった状況があるのか、そこを知ることは、今後のことについて必要になってくる場所じゃないかなと思います。

次ですが、障がい者の避難という部分では、先ほどの答弁で福祉避難所というところがありました。

今年の6月議会でもコロナ禍で各福祉施設は面会制限がある中で、じゃあ、実際、受入れがどういう状況なのかという質問も行いましたが、今回、台風10号があったわけで、改めてこの福祉避難所の利用状況、また、開設に至る流れについて、具体的にどのようなにあるのか、答弁をお願いいたしますとともに、福祉避難所に限るものではありませんが、避難等において声掛けや支援が必要となってくる要配慮者等について、その関係団体等と災害時の避難についてどのように意見交換をされているか、答弁をお願いいたします。

○議長（山口昌宏君）

松尾福祉部長

○松尾福祉部長〔登壇〕

おはようございます。まず、福祉避難所の開設までの流れについてでありますけれども、福祉避難所は、一般的な避難所では、避難生活に支障があられる高齢者、障害者等の要配慮者のためにバリアフリーなどの何らかの配慮をした避難所であり、基本的には、一時避難所に避難をされた方で介助等が必要な要配慮者の受入れについて、事前に市と福祉避難所の設置に関する協定書を締結している福祉施設と、受入れ可能な人数、体制等のマッチングを行い、市が受入れを要請し、開設することになります。

なお、災害の状況や緊急を要する場合、市が開設を要請する前に協定書を締結している施設が要配慮者を受入れ、その必要性を認めた場合も福祉避難所の開設ということになります。

これまで、平成24年12月の福祉避難所の制度導入以降の開設、避難者の状況でありますけれども、平成26年7月の大雨時に1か所を開設、避難者は1世帯1人、昨年8月の豪雨時に2か所を開設、合わせて5世帯10人、今年5月の台風10号の接近の折に1か所を開設、避難者4世帯6人となっております。

関係団体等々の意見交換というようなことでございますけれども、避難所の在り方については医療的ケア児の避難訓練時に、その保護者や関係者の方々、また、あるいは指定している福祉避難所の一部の施設長の方々と個々での意見交換を行っておりますけれども、避難時

の不安は多岐にわたると思われまますので、今後、配慮者の方、そしてその家族、関係団体合同での避難時の在り方、避難時の不安等について意見交換を行っていききたいと考えております。

○議長（山口昌宏君）

2番豊村議員

○2番（豊村貴司君）〔登壇〕

個々での意見交換はありますが、今後、関係団体等を含め、意見交換を行っていききたいと思うということでした。

様々な状況がありますので、福祉避難所があっても、そこをどう活用するかというのは、やはり当事者の皆さん等と意見交換をすることも必要じゃないかなと思います。

私も、ある障がい者の関係者の方から、やはり避難の不安についてちょっと言われました。

以前、朝日新聞にも載っていましたが、11月19日の記事ですね。

障害のある人とその家族、県や市の関係者が集まって災害が起きたときの避難について意見交換が行われたと書かれていますが、避難に関する不安の声が相次いだとありました。

ただ、こうして当事者と行政が意見交換をすることで、互いの気持ちを理解することの大事さも書かれていました。

やはりこういった意見交換というのは、すごく大事だなと思います。市長、この点についてはどのように考えますか。

○議長（山口昌宏君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

私も、なるほどなと思ったのが、お話を聞いたことがありまして、障害を持っていらっしゃる方が、直接、福祉避難所に行くことが、どうも仕組み上なかなかできないと。国のマニュアルに沿っているというのを後で分かったんですけども、やっぱり一旦、一時避難所に行ってから、そして福祉避難所にその後行く。

我々、緊急時の対応は、適宜、先ほどの答弁どおりやっているんですけども、仕組み上そうなっているというのも、障がい者の方の立場になってみるといかなものかと思いました。

理想的なことで言うと、例えば救急搬送の仕組みで、病院側と、そして、患者さんを直にマッチングをさせるというような仕組みがやはり必要なんじゃないかと思って、ここはしっかり国にも、私からも要望していききたいというふうに思っております。

そういう意味で、私たちが気づかない部分というのは、やはり意見交換をしないと気づかない、分からない部分でありますので、ここについてはしっかりと現場の声を聞いて、そして、障害を持っていらっしゃる方がとにかく、避難をする際、あるいは避難をした先で困ら

ないような体制をしっかりとつくっていきたいと考えております。

○議長（山口昌宏君）

2番豊村議員

○2番（豊村貴司君）〔登壇〕

市長、言われましたように、一度、指定避難場所に行くという流れがありますが、それが果たして本当にいいのか、直接行くにしても、受入れ先がどうあるのかとかいろいろ本当、難しいところがあると思います。やはり当事者等と意見交換をして、率直な意見を聞きながらいい仕組みができていけばと思います。

災害に関して、次の項目ですが、地域防災計画というのがあります。

武雄市地域防災計画は、災害対策基本法第42条に基づき、市民の生命、財産を災害から守るため、災害に係る事務または業務に関し、武雄市防災会議が作成する総合的な計画ですとされています。

今年の2月には、昨年8月の豪雨災害の課題に伴う内容の修正がされていますが、この地域防災計画の見直しはどれぐらいの頻度で行われているか、答弁をお願いいたします。

○議長（山口昌宏君）

諸岡総務部理事

○諸岡総務部理事〔登壇〕

議員御質問の地域防災計画についてでございますが、先ほど御紹介ありましたように、こちら武雄市においても防災会議を毎年、開催をしております。

この会議の中で、地域防災計画の修正等について審議を行い、見直しを行っているところでございます。

○議長（山口昌宏君）

2番豊村議員

○2番（豊村貴司君）〔登壇〕

毎年、見直しが行われているということで、次に行きますが、では、要配慮者のための防災行動マニュアルというのがあります。

これは要配慮者と、——要配慮者というのは高齢者、障がい者、乳幼児、その他の特に配慮を要する方とされていて、ほかに難病患者さんや妊産婦さん、外国人等も含まれるとされていますが、——災害に備え、災害が発生したときに適切な避難行動を取ることができるよう、日頃からの備えと対応をまとめたものということです。

あわせて、地域の方に要配慮者の特性を理解していただき、地域や避難所等での支援に活用いただくことを目的に作成されていますというふうに書かれています。

中身については、日頃の備えであるとか、災害が起きたときの避難行動、また、避難所ではこうしましょうよといったことが書かれています。

最初に言いましたように、このマニュアルは要配慮者とその家族または地域の方にとありますが、マニュアルとして行政が示すわけですから、作成する行政としてもこのマニュアルの在り方についてももちろん理解するべきところと思います。

先ほど、私も障がい者の関係の方からお話を伺ったと言いましたが、どういうふうに避難されているかを聞いたときに、今回、ホテル等を利用しようという声もあったとかいうのもありましたが、避難所ということあまり聞こえませんでした。逆に、ホテル等は経済的に皆さんがもちろん利用できるわけではありませんし、いろんな状況があるんだなと思います。

この要配慮者のための防災行動マニュアル、先ほどの地域防災計画は毎年、見直しがあるということでしたが、こちらのマニュアル作成においては、関係団体等へどのように意見聴取が行われたか。また、台風 10 号の後、マニュアルの検証はどのように行われたか、そして、今後の見直しについてどのように行っていくか、答弁をお願いいたします。

○議長（山口昌宏君）

諸岡総務部理事

○諸岡総務部理事〔登壇〕

議員御質問の要配慮者マニュアルについては令和元年 6 月に策定しております。

また、この見直し等におきましては、災害後の見直し等を行えていないような状況でございます。あと、意見等の聴取につきましては、先ほど御質問の中にもありました担当課、福祉課のほう等々連携をしながら意見を聴取、さらには、地域の方々からの御意見をいただいている分がございます。

今後、昨年豪雨災害、それから、今年の台風 10 号も含めて、要配慮者の方や御家族、関係者の方々の御意見を反映して見直しを行いたいと考えております。

○議長（山口昌宏君）

2 番豊村議員

○2 番（豊村貴司君）〔登壇〕

やはり、マニュアルというものはもう作って終わりじゃなくて、それがいかに有効なものであるかということと日々、見直しをしていかなければいけないと思っています。

関係団体、福祉課と連携をして意見を聞かれているということですね。ということではありましたが、先ほどこのマニュアルは要配慮者本人や家族、地域の方にとというふうなところがありました。そういった方たちにこのマニュアルは、心構えとして配布されているのでしょうか。この点について答弁をお願いします。

○議長（山口昌宏君）

諸岡総務部理事

○諸岡総務部理事〔登壇〕

先ほど御指摘の要配慮者マニュアルの配布についてでございますが、こちらは作成時 450

部ほど作成をしております。こちらのほうを全区長、民生委員の方々、消防団各部のほうに配布をしております。

要配慮を必要な方々、こちらについては区長、民生委員を通じて支援をいただく内容等がございますので、そういったものを気遣いいただきながら周知を図っているといった状況でございます。

○議長（山口昌宏君）

2番豊村議員

○2番（豊村貴司君）〔登壇〕

中身について、先ほど言いましたように、日頃の備えであるとか、避難行動等が書いてありますので、やはり御本人とか家族にさせていただくということは必要なところかなと思いますので、民生委員さんを通じてというところがありますが、その点ができているかというところも検証していただきたいと思います。

次に行きます。

備品管理です。

今回の避難については段ボールベッドが活躍しました。今後も活用がもちろん考えられると思います。

ただ、やはりこういった備品は、災害に関しても段ボールベッドだけじゃなくて、毛布とか飲料水とか様々ありますし、ほかにも災害以外でもいろんな各課の備品であるとか、そういったことが倉庫のほうにあると思いますが、実際、この管理する倉庫について、そのスペース等について課題があるというところも伺っております。

武雄市として、この備品管理について、スペースのことなど管理状況はどのようにあるか、また、そこでの課題、今後の対応について答弁をお願いします。

○議長（山口昌宏君）

山崎総務部長

○山崎総務部長〔登壇〕

各課の備品につきましては、各担当課で保管場所を確保し、災害用備蓄品につきましては、各町に分散備蓄を行っている状況にあります。

しかしながら、保管場所を確保できなかった備品や各町の備蓄品倉庫に保管し切れなかった備蓄品につきましては、普通財産であります旧武雄消防署や旧北方水道庁舎下の倉庫に保管している状況であります。

現在、備品等を保管している旧武雄消防署の今後の活用策についてはまだ決定をしておらず、あくまでも一次的な保管場所としておりますので、中長期的な保管場所の確保が課題ということになっております。

また、今後、用途廃止される公共施設の活用や遊休地などへの倉庫の建設など、関連部署

と情報を共有しながら、中長期的な保管場所について検討を行っていきたいと考えています。

○議長（山口昌宏君）

2番豊村議員

○2番（豊村貴司君）〔登壇〕

スペース等で、あくまでも今は一時的なものであるというところもありましたが、やはりこういった管理が適切に行えることというのが、何か有事の際に迅速に動けるということにもつながると思います。

質問ではありませんが、私の考え、意見としまして、災害のときには、近隣自治体ともそういった備品について連携したりというのもあるので、県ですね、政府のほうに、そういった倉庫を造ってくれないのかなと思うところもありますが、これは私の個人的な意見であります。

次に行きます。

3番目、最後の大きな項目になりますが、武雄市の活性化について。

まず、新幹線開業について行きます。

令和4年秋に武雄温泉－長崎間での新幹線が部分開業として動きます。

この開業について、今回、12月の市報にも掲載されましたが、我が家も含めてまだ市報が来ていない家庭もあると思います。

この新幹線開業について、その概要と武雄市が考える効果について答弁をお願いいたします。

○議長（山口昌宏君）

古賀営業部長

○古賀営業部長〔登壇〕

御案内のとおり、この新幹線につきましては、2022年秋に暫定開業いたします。

これにより、従来の博多－武雄温泉間の特急につきましては、現在の約3倍となる見込みであり、アクセス数等についてかなり便利になっていくと考えているところであります。

また、長崎－武雄温泉間につきましては、この新幹線開業により直接結ばれるということで、最短28分で移動が可能になり、これにより交通の結節点としての役割がさらに増すものではないかと思っております。

また、効果につきましては、長崎や福岡エリアが通勤・通学圏になると考えておりまして、武雄市に住みながら就職や就学の選択の幅が広がるものではないかと考えております。

○議長（山口昌宏君）

2番豊村議員

○2番（豊村貴司君）〔登壇〕

先ほど、我が家にはまだ市報が来ていないと言いましたが、インターネットで中身を確認

したんですが、その紹介で、新幹線開業は私たちの暮らしが変わるチャンスとして掲載をされてありました。

市民の方でも実際に来て、どがんなると、どがん効果のあるところをうまくつかめていないところもあると思いますので、この市報による啓発等を含めて、やはりこういうふうな効果がありますよというところを市民の方に知っていただく。大人だけじゃなくて、高校生とか子供も含めて、自分たちが大人になるときにどうあるんだというのを知っていただくということは、ある意味、流出を防ぐ、人口減少対策にもつながっていくと思います。

この市民への啓発を積極的に行ってくださいと思いますが、この点について答弁をお願いします。

○議長（山口昌宏君）

古賀営業部長

○古賀営業部長〔登壇〕

啓発ですが、まず、開業に向けては、市民の皆様の方と盛り上がりというものは大変必要なものであると認識しております。

市民の皆様への啓発とか気運の醸成につきましては、例えば11月21日に実施いたしましたJRウォーキングの新幹線駅見学会をはじめ、公共空間活用の実証実験、武雄温泉千年夜市、また、横断幕の設置、市報への掲載等取り組んでいるところでございます。

議員御指摘のとおり、今後もこのような啓発につきましては、積極的に取り組んでいきたいと考えております。

○議長（山口昌宏君）

2番豊村議員

○2番（豊村貴司君）〔登壇〕

先ほど言いましたように、人口流出を防ぐという意味でも、ぜひ子供たちにもそこを意識するような、何か啓発の仕組みをしていただければと思います。

ただ、今回、部分開業であります。私も何度か新幹線については質問で取り上げたんですが、未着工区間を含めて、全線フル規格でつなぐことがやはり必要と思っています。

先ほどの、令和4年秋の部分開業による効果はありますが、全線がつながった場合の効果というところを考えたときに、やはり限定的なところがあるんじゃないかなと思っております。

全線がつながることが必要と思いますが、この点について、武雄市としてどのように考えているか答弁をお願いいたします。

○議長（山口昌宏君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

部分開業については、これまでと比べるとプラスの面があるというところは事実であります。長崎市と武雄市が直接結ばれるとか、市民の暮らしという点でも向上するというところは間違いないと思っております。

ただ、やはり一方で、民間の投資意欲が高まらないと。

これはやはり、実際に民間企業の方からも私は直接、話をいろいろと聞いておりますし、あと、大阪方面、関西方面からすると、乗り換えなければならないというところでは、西九州への大きな人の流れをつくるというのは、現状のままではなかなか難しいと思っております。

いつも申し上げておりますけれども、やはりこの新幹線開業によって、大きな人の流れをつくる、交流人口を増やすという点では、将来としてはフル規格が私は望ましいと。これは従来からも、そしてこれからもそういう考えであります。

○議長（山口昌宏君）

2番豊村議員

○2番（豊村貴司君）〔登壇〕

啓発に当たって、そういった未来像というか考えも併せて、やはりこういったところが必要と思うということも併せて啓発していただきたいと思えます。

次に、ハブ都市を目指してとしています。

ハブ都市として人が武雄に集まる、また、武雄から人が各地へ動く。

広域の視点で武雄がどうあるべきかというところがありますが、そういった広域で考えたときに交通手段というところがあります。

新幹線開業によって新幹線が通りますが、新幹線だけじゃなくて、いろんなところから行き来するってなったときに、鉄道であるとか自動車、バス等、様々な交通手段があります。これらを、やはりより便利なものにしていくということが、武雄市としての交通の要衝として、その地の利を生かした取組、まちづくりに必要なものと考えます。

先ほど新幹線のことを言いましたが、例えば近隣の佐世保市においても、かつては新幹線が考えられたところではありますが、結果、通りませんが、武雄市としてこの佐世保市とどうつながるか、様々な交通手段を考えたときにも、利便性を高めることができるかということも大事と思えます。

このハブ都市を目指す上で、周辺自治体との交通手段の利便性向上を図ること、大事なことと思えますが、市の考えについて答弁をお願いいたします。

○議長（山口昌宏君）

庭木企画部長

○庭木企画部長〔登壇〕

武雄市が目指しております西九州のハブ都市として、交通の結節点としての優位性を生か

すためには、武雄温泉駅からの交通手段が市民にとっても、あるいは市外から来られる観光客やビジネス客にとっても、便利であることは必須であると考えております。

一方で、交通事業者を取り巻く環境といたしましては、人口減少や運転手不足等で厳しい状況であり、さらには周辺自治体におかれましても、地域交通に係る経費が急速に伸びてきている状況でございます。

今後も十分な共有を図りながら、利便性の向上に努めてまいります。

○議長（山口昌宏君）

2番豊村議員

○2番（豊村貴司君）〔登壇〕

この交通手段の利便性向上というのは、ハブ都市として最も大事な部分と私は考えています。また、それに取り組むこと、武雄市がこう便利だよというところを知らせるということも必要かなと思いますのでお願いいたします。

次ですが、競輪事業というところで行きます。

ハブ都市を目指しての項目に入れていますが、競輪は武雄市にとっても、財政面でも一般会計に繰入れが行われるなど大事な事業です。

現在、ネット販売が好調ということで、例えばツイッターで武雄市と検索すると、開催時には武雄競輪のことがほとんどと言っていいぐらい上がっている状況です。

そうしたネットについての全国の状況を見ると、多くの競輪所が公式のツイッターアカウントを取得して情報を発信されています。

武雄競輪としても、SNSを使った情報発信に取り組んではどうかと思いますという点と、もう一点、私が感じているのは、昔から武雄にいる人と話をすると、昔は本場開催のときに火矢が上がったもんねというふうな形で、懐かしく話されているというのを非常に感じます。武雄競輪というのはすごく大事なものと捉えられていますし、身近に感じて愛着を持ってもらわれているなと思っています。

そこで、この火矢ですね、火矢を復活してはどうかというふうに思います。SNSの活用と併せて答弁をお願いいたします。

○議長（山口昌宏君）

山口営業部理事

○山口営業部理事〔登壇〕

おはようございます。まず、SNS活用の御質問でございますが、武雄競輪場ではフェイスブックアカウントを保有し、PRを行っております。そのほか、広報担当職員のフェイスブック、武雄競輪場公園公式のインスタグラムでもPRを行っているところでございます。

今後も競輪イベントPRや開催情報など、SNSを活用して集客アップにつなげていきたいと考えております。

それから、火矢の件でございますが、武雄競輪場では平成 16 年頃まで本場開催時に火矢の打ち上げを行っておりましたが、周辺住民の方からの音の苦情や経費削減の理由等で打ち上げを取りやめたという経緯がございます。

そうした状況が解消できれば、打ち上げを再開するという事は可能でございますが、まずは他の競輪場、近隣の公営競技場との状況、ニーズ、周辺地域への影響等を調査研究していきたいと考えております。

○議長（山口昌宏君）

2 番豊村議員

○2 番（豊村貴司君）〔登壇〕

ぜひいろんなことを活用しながら取り組んでいただきたいと思います。

続きまして、武雄の未来像について。

新幹線開業や新球場建設、新体育館の運用開始など、武雄市において大きな事業が具体的に予定されています。こういったスケジュールについて説明をお願いしますとともに、もうすぐ年末年始になります。市外、県外から帰省で帰ってこられます。そういった方に、武雄はこういったふうに動いていくんだよというのを見せるチャンスじゃないかなと。年末年始というのは、親子で武雄のことについても話し合ってもらうチャンスじゃないかなと思います。

それが人口減少対策であるとか、居住人口増加に向けた戦略の一つとして思いますが、この武雄の未来像について、スケジュール等と併せて啓発の取組について答弁をお願いいたします。

○議長（山口昌宏君）

野口まちづくり部長

○野口まちづくり部長〔登壇〕

おはようございます。Uターン啓発についての御質問となりますけれども、令和 2 年度より、市民力によるUターン等の働きかけに対する定住アシスト奨励金制度を立ち上げており、このチラシに 3 世代同居、近居のメリットを掲載し移住支援サイト。

〔2 番「移住は次だったんですよ。いいです、はい」〕

啓発については、移住支援サイトや市役所 1 階のデジタルサイネージ等にて周知に努めております。

○議長（山口昌宏君）

2 番豊村議員

○2 番（豊村貴司君）〔登壇〕

今、私が居住人口増加というふうなところを言いましたので、定住人口増に向けての支援制度とありましたが、その移住については、9 月議会の一般質問でも私は移住政策について

取り上げて、そのとき、支援制度を使って移住された方へのアンケートとして、親・親族がいるから移住してきたと答えた人が、よい物件・土地があったという方とともに多い理由だったというところも言われました。

親がいるからということ考えると、先ほど言いましたように、この年末年始ですね、ここをどう生かすかというところがあると思います。

年末年始に帰って来られて、親子で武雄市の定住支援の定住奨励金制度について知らせたりとか、3世代で同居をすること、近居のメリットについて知ってもらう、そういったことを話し合ってもらう機会に、ぜひそういう機会と捉えて、武雄市も戦略を持ってこの年末年始を生かしてもらいたいなと思っております。

武雄市の未来像、この移住について話し合う機会等を年末年始に取ってもらいたいと思いますが、この点について答弁をお願いいたします。

○議長（山口昌宏君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

こういった様々な補助金制度、定住アシスト奨励金などもあるというところを、従来に加えて、ホームページでもやはり目立つところに置く、あるいは駅に、帰ってきたらすぐに、改札を降りたらそういうものが分かるようにするとか、とにかく目につくように工夫をしていきたいというふうに思っています。

さらには、補助金だけではやはりなかなか人は帰ってきませんので、そこは仕事ですとか子育て、あるいはライフスタイルとか、そういう総合力がやはり移住は大事だと思っております。

先ほどおっしゃったとおり、実家があるからというところに加えて、これからは交通結節点となりますので、言わば佐賀に住んでいて長崎へ働いている人、長崎に住んでいる人が武雄に居を構えるチャンスでもあるというところですので、そこは帰ってこられる方だけではなくて、今後は対長崎に向けてのそういったUターン、Iターン、そこに向けて効果的な戦略を策定して考えていきたいと思っております。

○議長（山口昌宏君）

2番豊村議員

○2番（豊村貴司君）〔登壇〕

ぜひ武雄市のホームページ、インターネットの情報サイト、「たけおグッドライフ」ですね、移住支援サイト、こちらにも先ほど言いました定住奨励金制度、武雄の定住につなげるような紹介をした人には1万円をお渡ししますよというのがありますが、そういった情報もなかなか、詳しく見ていけばもちろん分かるところはあります。先ほど言いましたように、3世代同居のメリット等についても書いてはあるんですが、やはり分かりやすいかと言った

らそうではないです。

いかに分かりやすいように、見てもらいやすいようにするかというところは、市長も改めて今、PRの仕方がどうあるのかというのを、ぜひ部長さん等を含めて見直しをしていただきたいと思います。

そして、市長も言われましたように、補助金だけじゃなくて、いろんなことについてどうメリットがあるかというところを、やはりしっかり分かりやすく、いかに伝えることができるか、多くの人に知ってもらうか、そして、親子で話し合うきっかけをつくるか、そういったことを取り組んでいただきたいなと思っております。

それでは、私の一般質問を終わります。

○議長（山口昌宏君）

以上で2番豊村議員の質問を終了させていただきます。

ここでモニター準備等のため、5分程度休憩いたします。

| | | |
|---|---|-------|
| 休 | 憩 | 9時59分 |
| 再 | 開 | 10時6分 |

○議長（山口昌宏君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、18番牟田議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。18番牟田議員

○18番（牟田勝浩君）〔登壇〕

（全般モニター使用）議長より登壇の許可をいただきました。質問を開始いたします。

もう最近はコロナ、コロナ、コロナですね。本当にコロナ一色で、そして、災害が今年、今はあってないですけども、そういうのがあっておりました。もう本当、さんざんという言葉が当てはまるような、この時代になってきているんじゃないかということだと思います。

コロナとか水害とか、もう本当にいろんな試練がありますけれども、もちろんそういう中で、例えばいつもあっているように、イノシシ被害とかそういう害獣被害もさらに増えてきております。イノシシはもちろん、猿とかも目撃されているんですよ。

去年だったですかね、有田で鹿が発見されたと。伊万里もだったですかね。鹿が田んぼにいたと。鹿が田ん中にいたと。仕方なかと。（笑い声）

でも、今日の質問の趣旨は、仕方なかじゃないというところを強調してやっていきたいと思えます。

本当は、コロナやけん仕方なか、災害やけん仕方なか、鹿の田ん中おうけん仕方なかとか、そういうことじゃない。やっぱり当事者、行政が手を取り合って、そして、行政も手を差し伸べて、当事者も頑張っていくような、そういう政策をやっていただきたい、そういうテーマに沿ってやっていきたいと思えます。

では、最初、新幹線等ハブ都市について、情報発信、地域保全、コロナ対策、こういうのを質問させていただきます。

横の絵は、昨日は朝、竜王宮の祭りといって、若木町の菅牟田区の竜王宮のところの画像を撮りました。

大きい木は大イチョウなんですね。日本で一番背の高い大イチョウは 31 メートル。日本一は、青森県にある大イチョウの 31 メートル。これ測ってもらったら、29 メートルなんですよ。あと 2 メートル。あと 2 メートルで日本一になれると。

ここを、見たように、周りが木で茂っていて、光が当たらないんですね。だから上に伸びるんですよ。青森県のは 31 メートルですけれども、横が大きいと。これは上に伸びている、周りにそういう障害じゃないけれども光を遮るものがあるから上に伸びている。

武雄市も、障害があるけれども上に伸びて日本一になりましょう。

こういう中で最初の質問、新幹線ハブ都市推進について、これをやっていきたいと思いません。

新幹線を先ほど来、2022 年秋開業という言葉聞きます。

この画像は新幹線、この前、工事中に入らせていただいた画像です。横のやつはかもめ、新しく今度発表されたやつ。これはもうやっぱり期待が高まるんですね。

市長が先ほどおっしゃった、これが来たからというのは、マイナスではなくてプラスだと。もう当たり前ですけれども、プラスにしなきゃいけない、プラスになるのをさらにプラスにしなきゃいけない。

このときに、いろんな情報収集をしなきゃいけないということですが、全く計画の進み方が私は分からないんですね。

2022 年に開業というのは分かります。でも、駅舎は、——これ議員の皆さん、何人かは覚えていらっしゃると思うんですが、前市長のときに、駅舎の骨格が 1 案、2 案、3 案とあって、その中から我々議会にも提示されてどの案がいいでしょうかというのがありました。大まかな骨格が決定して進んでいるんですが、その後が全然分からないんですね、どのように進んでいるのか。

各種団体が、この中に入っている新幹線活用プロジェクトがあつてだと思います。

私、観光協会の理事もしていますし、商工会議所のほうもそういうふうにはしていますけれども、ここ何年間か、これ始まってから 1 回も説明がない。1 回も情報収集もない。誰が代表で行っているのかも知らない。今言った、例えば私が属している団体は、誰がどのように選ばれて行っているのかも分からない。その途中、こういうことですが、何か意見がありますかということも聞かれない。こういう進捗状況ですということも言われない。

じゃあ出てくる人が、この新幹線の駅について、完全に個人の意見を言っているのと同じじゃないかと。団体の代表じゃなくて、個人じゃないかと。

それは、議会もいろんな団体に行ったりして、ある程度、自由裁量というのがあります。そうしないと、ごっといごっとい聞かんぎいかんけん、ある程度、自由裁量はあるけれども、始まって以来、1回も説明がない、情報収集もしない、誰が言っているかも分からない。

というところで、この前、観光協会、商工会議所、ほかの団体も含めて、新幹線の説明会がありました。推進室の室長さんが説明をしてくれましたけれども、そのときに質問のコーナーがあって、質問したのは観光協会の会長さんですよ、質問をされたのは。

旅館組合の会長さんが手を挙げて質問するんですよ。どうということ。

その団体の代表が行っていて、その中でもんでこれになったというのが認識です。

どうということ。分からない。

もう行っている人が全く打合わせしない。この計画について個人の意見、こうなれば個人の意見ですよ。

例えばその人が商売にたけて、いろんな英知がすぐれている、そういう情報収集がすごいとなればいいかもしれないけれども、その組織、組織において、私が所属している団体のことを言っているんですけども、全く個人の意見で、今度、新しい新幹線、せつかくできる新幹線、そういうのが見えない。我々の意見はどこで通るのか。

もちろん、この議会という場でもそういう情報収集を、我々から、どうでしょうか、こういう意見がありますけれどもというのも全く私は聞いていない。

本当にその中の個人の意見が先行しているんじゃないか。

我々、視察とかいろんな商売にしても、いろんな駅に行きます、新幹線の駅。このまま行けば、どこにでもある駅と同じような位置づけになるんじゃないかと本当に心配しています。

やっぱり商売にたけた人、ここにこういうのを配置すれば、こういう色の配色をすればと、そういうのが必要。そういう、市民もプロがいっぱいいらっしゃいます。それで飯食っている、商売で。やっぱりそういう人の意見を。あと2年ありますから、何とか間に合います。そういうふうな意見の収集をしなきゃいけないんじゃないか。

最初の質問ですけども、この各種団体、そういうのにきちんと報告をしているのか、そこから情報を収集しているのか、その調査とか、そして、こうやってちゃんと聞きなさいという指導はされるのか、これを第1問目の質問にさせていただきます。

○議長（山口昌宏君）

古賀営業部長

○古賀営業部長〔登壇〕

まず、この新幹線活用プロジェクトでございますが、経済団体、二次交通事業者、各町の区長会の代表の皆様、有識者の皆様、市議会議員の皆様、そして、武雄市の職員で組織をしている団体でございます。

まず、この新幹線活用プロジェクトにつきましては、各団体におきまして情報共有等を行

いながら取組をしていただいているものと認識をしており、先ほどありました調査等は行っておりませんが、委員会、また、その下にあります幹事会、作業部会等でのものについては、各自持ち帰って御報告をしていただくようお願いは常にしているところでございます。

○議長（山口昌宏君）

18 番牟田議員

○18 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

まだ2年ありますし、本当に今度の駅というのは期待するところです。

やっぱり、こういうことを言うといけんかもしれんけれども、嬉野温泉駅もそういうふうにして新しくできるんですね。武雄温泉駅もできます。どがんしてでも比べられるわけですよ。

武雄のもんは嬉野を見て、ああここよかったねって、武雄もこがんすっぎよかったとか、逆もあるかもしれんですね。

基本的にこの質問は、あと2年あるので、よりよい駅を造っていただきたい、いろんな情報収集をしていただきたい、そういう意味でこの質問を冒頭にさせていただきました。

あと2年でここまで進もうけん、今さら変えられんもん仕方なかじゃあなくて、あと2年あるから何とか情報を収集して、いいアイデアを取り入れて、やっぱりここに反映させていただきたい。

この前、こうやって写真を撮ったときに言われました。

例えば柱を朱色に、柱じゃなかった、天井かな、天井のはりの一部を朱色に塗るとか何とかという説明も受けました。そんなのインパクトないですよ。

どうせやるならここの中の全部、新幹線が入ってきた途端、朱色に全部するとか、天井も朱色にするとかですね、そんならいせんとインパクトないですよ、商売のたけた人が数名、私に言われました。

牟田君、がんやって進みようばってんが、我々意見を言うところがなかけん、あんたから言うとして。ちょっとこの前聞いたばってん、こういうとで進みようけれども、なかなかそれじゃあインパクトなかよって、どこでもあるとになってしまうよ。そういう声を受けて今回、質問をこうやって上げさせていただいたんですけども。

やっぱり市が、新幹線、こうやって開業というのを、——先ほど豊村議員が言われました、啓発すればするほど、どがんないよと、ということで注目されて、「ここもこがんすっぎよかとけ、あがんすっぎよかとけ、なんやこんくらいやって、こんくらいしんしゃい」って言われないうに、ぜひ情報収集とよりよい意見の反映、まだ2年あるので間に合うと思います。

そういうことをやっていただきたいと思います。市長いかがでしょうか。

○議長（山口昌宏君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

牟田議員おっしゃるように、どうしても嬉野温泉駅とはまず、比べられると思います。

向こうは何もないところに造るので、いわゆる開発型、言わば見えやすいと。ある意味です、何ができた、これができた。

武雄はそれまでのエリアはないんですけれども、やはりそこに負けない駅の、私もインパクトだと思っていますので、そこは必要だと思っています。

各団体への様々な情報共有のお願いというのは、先ほど答弁したとおりですけれども、それだけではなくて、やっぱり幅広く意見を聞いて、そして、その意見をしっかりと取り入れていくというところは、何より大事だと思っています。

みんなの駅でもあるということですので、みんなで作っていく、その情報の発信をし、そして聞いて集約をして上げていく、ここの仕組みをしっかりとつくって、よりよい駅に向けて取り組んでいきたいと考えております。

○議長（山口昌宏君）

18 番牟田議員

○18 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ぜひお願いしたいと思います。

先ほど言いました朱色にするというのは、やっぱりインパクトの問題ですね。

例えば僕、さっき壇上で、仕方なかという言葉が冗談半分みたいな感じで言ったんですけれども、それは俗に言う、つかみってやつですね。やっぱり目を向けてもらえると。

だから、武雄市の駅に入った途端、つかみというのは全く見えないんですね。だから、そういうのは必要だと思います。

新幹線活用プロジェクトも本当はそういう意見があってしかるべきだと思いますけれども、こうやってPRされてからいろいろ意見を言って、途中経過でちゃんと聞いていければいろんな意見で反映されたと思うんですけれども、ぜひお願いします。

例えば駅はこれで 1,000 人増えた。1,000 人増えたら、例えば図書館のお客さんも 100 人増える、例えば大楠公園にも 100 人増える、ここが栄えれば、やっぱりそうやって全体の観光客も増えるんですね、ここの近くだけじゃなくて。

ついでに、——ついでという言葉はいけないんですけれども、そのまま続けると——説明会では、ここの駅の開発と、そして、回遊性を物すごく強調されました。駅を降りてその周りのところ、——さっきの千一夜市もそうですね、——回遊性を言われました。

私に言わせると、——これは一緒に商売人と話しているんですけれども、どういうことと。

普通、観光地とか降りる目的地というのは、議員の皆さんもいろんなところ行っていらっしゃると思います。職員の皆さんもいろんなところ、駅から歩いて行ける場所は商店街と

か食べ物だけですよ。

本当に降りて見に行きたいってところは、ほとんど皆さん車とか、例えばタクシーで行っていませんか。それが、降ろすというところ。

回遊性ばかり物すごくこの前、言われました。回遊性というのは、ほぼ一部です。降ろす方向でいかなきゃいけない。

そうすると、先ほど、これも豊村議員がおっしゃった、交通体系をきちんとしておこななきゃいけない。

例えば登り窯に行きたいと。登り窯に行きたいときも、きちんと足の確保とか。やっぱり登り窯というのをPRして、登り窯を見にここで降りてもらう。

回遊性ばかり、結構、言われましたもんね。1時間十七、八分の説明会の中で20分ぐらい回遊性の話をされました。どういうことと思うんですね。

やっぱり、回遊性も確かに大事です。でも、降ろすという方向をどうすればいいか、そこからの、豊村議員もおっしゃった足の確保、そういうふうな本当の意味で降ろして、武雄市を回遊してもらう。

駅で降りて歩いて行けるところは商店街とか、目の前にお城があるところ、ほとんどそんなぐらいですよ。そういうふうな降ろすところをきちんと考えていかなきゃいけない。

そして、足の確保。そうやっているところにも旧所名跡、名所、御船山もそうだと思います。さっき言った大楠もそうですし、うちのまちに限って言えば、風穴もテレビで最近紹介されたことがあります。そうやって降ろさなきゃいけないと。

そういうことを考えると、公共交通、もしくはタクシー、そういうふうな全般の観光開発と交通網の体系の整備が必要だと思いますけれども、市長、いかがでしょうか。

○議長（山口昌宏君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

武雄温泉駅でまず降りてもらうためには、ここは徹底的に便利であること、これがやはり大事だと思っています。あとはやはり、そのまちで降りたら、こんな楽しいことがあるという楽しさが必要だと思っています。

恐らく、楽しさという点で歩く回遊性というところだったと思うんですけども、これは議員おっしゃるとおり、市全体の観光客の方の回遊性を高めていく必要があると私も思っています。

ちょっといい例かどうかはあれですけども、例えばこちらから肥前山口駅に行って、そして長崎駅に乗り換えていくときに、結構な待ち時間が発生したりすることがあって、やはりそういった乗り継ぎの面とか、駅で降りたときにどう観光客の方がストレスなく市内を回遊していけるか。

ここについては、まさに二次交通の話だと思いますので、先ほど豊村議員の答弁があったように、しっかりと市内を回遊できるような交通の仕組みをこの2年の間に整備をしたいと考えております。

○議長（山口昌宏君）

18 番牟田議員

○18 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ありがとうございます。ぜひよろしく申し上げます。

ちなみに、先ほど言った、なかなか情報が入らない、情報収集がないというところで、一つだけ御報告というか、もう皆さん方知っていらっしゃるかもしれませんが。商工会議所は11月で、例えば同じような発言をその会議で私したんですけれども、それ以来、もう4回、いろんな部会に分けて説明会と情報収集をされております。やっぱり急遽ですけれども、きちんとその組織内でされています。一応、商工会議所さんもそうやってやっていることをちょっと御紹介したいんですけれども。

例えば今、SNSってあるので、LINEもあるので、そうやってLINEでこういうことがありました、こういうこと話がありましたとグループで出せば、ここをこう言ってほしい、こうやってほしいって、SNSで簡単にグループをつくれば情報収集も情報発信もできるので、その団体がですね。

だから、そういうふうなものを、ぜひ御指導、そして、きちんと情報収集をやっていただければ、さらに進むのではないかとということでお願いして、次の質問に移ります。

情報発信について。

情報発信については9月議会でもやりました。

全戸受信機が武雄のほうにつきます。

そういう中で、例えば若木町の、——これはエリアトークって、若木町全戸にもう10年近く前から配布されております。

これを配布するときは、——当時、オフトークっていう、JAさんのところに機械を置いておいたんですけれども、オフトークの機械がもう古くなって、全然修理が利かなくなってきた。そういう中で、何とか便利な機能だから残したいという町民と、当時の区長会さん、振興協議会の皆さん方の御意見を受けて、——当時、修理をするのに四、五千万円かかるらしかったんですね、そのオフトークを。そんな負担は当然、若木町にもできないし、お金もないと。そういう中で、何とかしなさいと。今度、このエリアトークを全戸つけるようになったんですけれども、オフトークを中止にしてですね。

そういう中でも、本当に当時、若木町の区長さん、振興協議会の会長、その振興協議会の会長はもうこれで苦労して苦労して、もう髪の毛が薄くなりました。本当にそれ以来、髪の毛薄くなって、ストレスで太ってもきていますし、そういうふうな感じで本当に苦労して、

市役所もこれをつけるのに物すごく力を入れていただきました。

当時、樋渡市長のときですね、まちづくり交付金ということで一番最初されたとき、そういうのもしながら、ずっとしながら、何とか町民の負担を最小限に抑えて、全戸、こうやってつけることができました。

今回、新しい機械が全戸無償でつくので、これの入替えになると思うんですけども。

これちょっとごめんなさい、画像を大きくすればよかったですけれども、ここのところに8という数字が見えませんか。これは録音機能です。8個この中に録音がたまっていますよと。

例えば仕事で外に出ているときこういう放送がありました、お悔やみの放送がありました、どこどこで集会の時間があります何だというのが、ここに8個たまるんですね。8個たまったら、新しいのが入って、古いのは勝手に削除される。

これめっちゃ便利な機能で、先ほど言ったように、そういう録音が、いない間に放送されているのが聞こえる。例えば夜出ていたときも、夜放送があったときに聞かれる。ここ、ボタンを押すだけでいいです。

こういうふうな機能、前にも質問をしたんですけども、こういう繰り返し聞く機能という部分はどうなっているのか、これをお伺いしたいと思います。

○議長（山口昌宏君）

諸岡総務部理事

○諸岡総務部理事〔登壇〕

議員御質問の、現在、構築を進めている防災情報発信システム、こちらの聞き返しといたしますか、その状況の部分の御質問かと思えます。

現在、防災無線戸別受信機ということで配置はされておりますが、こちらのほうを防災情報発信システムということで9月の議会の中でも御説明をいたしました。

実際、その戸別受信機に、今、御紹介がありました録音機能、今回、整備する分については録音機能がついていないという状況での整備となっております。

それに代わる機能としまして、戸別受信機からの確認ということではなくて、実際に放送があった内容を0800、これは現在も周知を図っているところでございますが、それでの再確認。さらにはメールへのプッシュ型での配信、これは登録といった形のメール配信ということになります。またあわせて、FAXにも情報を発信し、お知らせするという状況になっています。

○議長（山口昌宏君）

18番牟田議員

○18番（牟田勝浩君）〔登壇〕

直接は無理かもしれないけれども、そうやってできるだけやってくれると。

人間、一度、便利な機能を覚えれば、なかなかちょっと手間かかるのは難しいんですけども、情報発信のところをきちんとやっていけるようお願いして、ちょっと次の質問のほうに移りたいと思いますけれども。

次は、これもちょっと先ほど豊村議員さんがおっしゃった部分と一緒になんですけれども、この前、台風が来て、どういうふうな現象が起きたか。

ホームセンターでは、——もちろん普通のお店で食料品の買い占めを始め、ホームセンターではテントがすぐ売り切れ、そして、養生テープがなくなる、そして、ガスコンロがなくなる、ベニヤ板がなくなる、それと電池もなくなる、そして、ラジオもばか売れしたんですね。やっぱりラジオもばか売れしたんですね。やっぱりラジオもいっぱい買われたんです。行ってもなかった。

そういう場合どういうことかということ、やっぱり、うちの町はエリアトクありますけれども、そういう場合、何かあった場合に備えて、ラジオを皆さん買われていたみたいなんです。今言った品目と同列ぐらいの売行きで。

やっぱりラジオ機能というのは災害のときに物すごく強い力を発揮すると思います。

今度の新しい受信機はNHKが1局入るということだったんですけども、前回、9月議会で質問をして、その後、説明を受けたんですけども、災害時は災害があった後にFM局を開設できるじゃなくて、災害がある前からFM局を開局できるということを伺っております。

今現在、聞いた話では、熊本の放送受信の担当のところ、武雄市もそういうことをやりたいと手を挙げていらっしゃるんですけども、ぜひそういうのをやっていただいて、この戸別受信機、NHKしか入らないというところを補う以上の、そういうふうな武雄のFM局の開局——これはもうFM局というのは、災害に限らず、この議会でも通算4度目ぐらい、災害のときって質問をしております。以前は、吉川議員さんも多分、FM局の開設のやつを質問されたと思います。

ぜひ災害、そして、いろんな連絡に対してFM局の開設をお願いしたいんです。前向きにですね、実際、前向きにそうやって申入れをしているということで、ぜひやっていただきたいんですけども、市長の御見解をお聞かせください。

○議長（山口昌宏君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

私は、FMの臨時災害放送局、これは設置する必要があるというふうに思っています。

と申しますのも、今年の災害で日田市に行ったときに、日田市の天ヶ瀬温泉の辺りがずっと停電をして、そして、戸別受信機が全く使えなかった。そして電池を配ったと。でも、電池を配ってもまたすぐ切れるということで、情報が全然、現地で入らなかったという話を聞

いて、市長さんもそれを非常に課題だと思っていらっしゃいました。

やはり災害時は、一つが切れても、いろんな複数の情報発信手段を持つておくというのは何より必要だと思っております。

そういう意味では、このFMの臨時放送局というのは、私はその大きな手段の一つであると思っておりますので、ここについては、先ほど議員おっしゃったように、今、熊本の総合通信局のほうにも依頼をしておりますし、受信可能なエリアの調査というところがどうしても必要だということですので、そこについては、ぜひ後押しもいただきながら、エリアを確定し、そして、そのエリアに沿って、今後、整備を図ってまいりたいと考えております。

○議長（山口昌宏君）

18 番牟田議員

○18 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

やっぱり安全をお金で買うじゃないですけども、手間で買うでもないですけども、やっぱり幾つもの選択手段があっただけだと思えます。

例えばエリアが決まっているといえば、北方町とか、地元ですね、朝日町とかも優先しておくとか。例えば遠方のところは、これは有線ということですから、有線が途中、何か所か切れたら困りますので、切れやすい可能性があるところを優先してやるとか、やっぱりそういうふうないろんな手段で。そして、市長が、いろんな手段でやっていくということをおっしゃいました。既にもう申込みはしているということですので、ぜひその姿勢をそのまま貫いていただければと思いますし、今の市長の意気込みの答弁を深く感謝したいと思います。よろしく願いいたします。

では、次に移ります。

次は、同じ情報発信なんですけれども、お悔やみ。

新聞を見るときに一面はそのまま開けば一面ですけども、大体いろんな人に聞くと、お悔やみ欄はもうほぼ新聞を見るときに見ると。

そういう中で、お悔やみ欄の情報発信ですけども、武雄市とかも特に、私も物すごく気にするほうなんですけれども、やっぱりお悔やみ欄で、新聞を見損ねたとか、何時からお通夜やったかなとか、何時から葬式やったかを見ると、ちょっと出先じゃ分からない。でも、さっき言いましたこのSNSの活用、——何か今日、豊村議員さんの名前をいっぱい出すんですけども、豊村議員さんがさっきSNSの活用と色々な情報発信ということを言われたんですけども、やっぱり一番ニーズが高いついていうところを、ホームページとかスマホで見られるように武雄市もしたら、また利便性も少し上がるんじゃないかと。

お悔やみ欄は必ず見ますよね、新聞のときに。今日、何時からだったかなというときって、わざわざ電話して聞くとか何とかじゃなくて、スマホで見られる。

ケーブルワンさんもやっていらっしゃいますよね。それはテレビがないと見られないんで

すけれども、ケーブルワンさんはホームページには載せていらっしゃいません。テレビで放送されています。

そういう中で、お悔やみ欄も情報発信したら、物すごく市民の方は助かるんじゃないかと。

繰り返しになりますけれども、新聞でよく見る項目は1面と、その次にお悔やみ欄ということで聞いております。

ぜひそういうふうな利便性の向上の部分で、武雄市もスマホで見られるような情報発信ができないものか、これをお伺いします。

○議長（山口昌宏君）

庭木企画部長

○庭木企画部長〔登壇〕

現在、お悔やみの情報を掲載されております新聞社さんの情報を、スマホでも確認できます武雄市公式ホームページ等に転用ができるのかどうかの可否を踏まえまして、手続面及び費用面について、まずは調査させていただきたいと思います。

○議長（山口昌宏君）

18番牟田議員

○18番（牟田勝浩君）〔登壇〕

前向きによろしくをお願いします。

また繰り返しになりますけれども、仕方なかじゃなくって、ぜひやっていただければ、少しでも向上になると思います。

例えばある県のある新聞、本当は取りたくないんだけど、お悔やみ欄の載っとうけん、取らんぎいかんもんって。実際、これは何かのY o u T u b eか何かでもあってましたけれども、そういうのもありますし、物すごく利便性が向上すると思います。皆さん見られると思います。それが、市のホームページをついでに見る拡大するチャンスで、足がかりにもなると思うんですね。

お悔やみを変なふうに言っちゃ失礼ですけれども、2回目言いますけれども、つかみの一つというふうにすれば市のホームページも見ただけだと。

こういうのも一つの方法かなと。利便性の向上及びそっちの副次的な効果だと思います。ぜひよろしくをお願いします。

では、次の質問に移ります。

次は、地域保全。

これは、いつも私のテーマでさせていただいているんですけれども、さっき市長がおっしゃった、人口が減っていく中、何とかっていう部分で、これは別の部分だったんですけれども、やっぱり人口が減ってきて、地域の保全がなかなかできなくなっている。

私、繰り返し、繰り返し、さらに繰り返し、繰り返しここで言っているんですけれども、

地域の人口が少なくなれば、——面積は変わりません。それに合わせて面積が小さくなれば、それは維持できますよ。でも、できない。1人のところの負担は増えてきている。

そういう中で、やっぱり行政も何とか手を差し伸べていただきたいという中で、災害が起きます。これは水で土砂がたまっているんですけども、これ小さいものじゃないんですよ。ここからここまで2メートルあるんですね。深さが1メートルもないですけども、五、六十センチ、これをどかすのは地域じゃ無理です。

下もこうやって地域の保全に努めていますけれども、やっぱりそういう無理なところで、よく建設課さんに地域のいろんなお願いとかなんか行くけれども、事業費が100としたら50は市が出します。残り50のうちの25の手間代は市が出します。残りを地域が見てくださいというのがあります。

材料費は100%見ます。でも、残りの手間代の半分は、手間代というか人件費ですよ。例えば土建屋さんをお願いしたときに、材料費は市が見て、土建さんが10万円請求が来たら、5万円は地元で見なさいという制度が建設課さんにはあります。

しかし、建設課さん、こうやって私もよくちょくちょく行ったら、これは農林ですよとか、逆に建設課ですからこの事業を使えばということがあります。

もしよければ、こうやって地域を保全するために、建設課だけじゃなくて、建設関係じゃなくて、こいは農林やけん使えんですもんねって言うんじゃないかと、農林のほうでも使えるような、今と同じような制度をお願いすれば、何とか地域の保全も負担が軽減されるんじゃないか。今後のより増える負担の一部の部分を行政のお手伝いで免除できるんじゃないかと思うんですけども、いかがでしょうか。

○議長（山口昌宏君）

山口営業部理事

○山口営業部理事〔登壇〕

地域の営農活動に必要な農業用施設の保全など、先ほど言われました地域の保全につきましては、地域活動があって成り立っていると認識しております。

持続可能なまちづくりができるように、議員がおっしゃられた補助金制度の見直しについては進めていきたいというふうに考えております。

○議長（山口昌宏君）

18番牟田議員

○18番（牟田勝浩君）〔登壇〕

本当に感謝いたします。

田舎に住んでいると、どうしてもそのような部分が出てきます。

以前ここで数字を言いました、人口1人当たりが見なきゃいけない面積というのは、町部に比べて田舎のほうはその何倍も何十倍も広く見ていかなきゃいけない。そういう中で、こ

うやって手伝いの一端を行政がしていただけるというのは、本当に感謝するところであります。

では、次へ行きたいと思います。

さっきの地域保全の分で、空き家対策。

空き家対策も本当にもう多種多様でいっぱいあると思うんですけども、空き家というのいろいろあるんですね。

例えば空き家になっても、そのまますぐ住める空き家、手を入れれば住める空き家、どうにもならない廃屋、いろんな種類の空き家があります。

やっぱり空き家というのは、今、武雄市も空き家バンクとかなんとかで対処しようとかされているんですけども、空き家が増えるのはいかんともし難いんですね。

実際、今まであった空き家は、住める状態から手を入れなきゃ住めない状態、さらに進んでもう廃屋、どうにもならない状態にだんだん、だんだん、だんだん進んできて、本当に大きな行政課題の一つ、そして、田舎の持っている課題の一つになってきます。

そういう中で、空き家対策のこれはほんのちょっと一端ですけども、この空き家、土地付でふるさと納税に載せられないか。ふるさと納税というのがあります。地域の特産品とか何とかをそれに載せる。例えばこれおんぼろだけでも土地付で、ふるさと納税に10万円が出しますよと。10万円を出せばこの所有権はあなたですよ。ちょっと責任転嫁じゃないですけども、そういうふうな方法ができればやっていただきたいんですけども。

例えばもっときれいな家、これは30万円ですよ。もう持ち主の許可もいただいています。不動産手続は行政がします。渡しても、ここに住んでくれたら固定資産税をもらえるから、いいですよ。

だから、そういうやり方ができないものか。

空き家バンクの登録っていうのは、あくまで待ちの姿勢なんですね。見に来た人が選んでどうかと、そういうふうにしてやれば、情報発信ですから、攻めの空き家対策というんですか。そういうのも一端の一つだと思うんです。

ふるさと納税に空き家対策が載せられないか、これをお伺いしたいと思います。

○議長（山口昌宏君）

庭木企画部長

○庭木企画部長〔登壇〕

ふるさと納税の所管であります総務省におかれまして、ふるさと納税の寄附金が経済的利益の無償の供与であるとされており、金銭類似性の高いもの、資産性の高いもの、価格が高いものなどは換金及び転売を防止する観点から、ふるさと納税の趣旨に反する返礼品として位置づけられております。

この点を踏まえますと、空き家・空き地バンクの物件は不動産であり、資産性の高いもの

と位置づけられるため、ふるさと納税の返礼品としては取り扱うことができないと考えております。

〔18番「それ間違いないと、調べたとね」〕

○議長（山口昌宏君）

18番牟田議員

○18番（牟田勝浩君）〔登壇〕

資産性が高いものではない。ちょっと残念だったんですけども。

こういうのもできるんですよ、住む権利を5年間貸し出します。手を入れなくても住めるところが空き家になった、その家主さんももう了承していると。住む権利を5年間貸し出しますとかやったら、それは資産性にならないからできるわけですね。

そういうふうにして、不動産事業ができないから仕方ないじゃなくって、やっぱりそういうやり方も一つはできると思います。

そして、ふるさと納税にお詳しい議長とちょっとこの前、話してたら、実際やっているところもなきにしもあらずらしいんです。

これも空き家対策の一環で言っています。

空き家対策っていっぱいあるんですけども、今日はこういうふうな質問ですけども、そういう中で、ぜひ空き家対策をこれからも進めていただきたいし、何とかそういう――抜け道という言葉はおかしいですね、――空き家を不動産で売るんじゃなくて、住む権利を10年間やりますとか、そういうふうなやり方とかいろんなやり方があります。

田んぼを、荒れた土地を、荒れた土地とか元田んぼで、去年ぐらいから、今年から作っていないんですけども、ここの田ん中を貸す権利をふるさと納税で10万円で貸し出しますとか、いろんなやり方があると思います。

ぜひ空き家対策、空き地対策、いろんな仕方なかじゃなくて、ぜひ知恵を絞ってやっていただければと思ひまして、次の質問に移ります。

大きな4番目、コロナ対策と、そして、その利用。

この画像はどこか分かりますかね。分かりますよね。池ノ内ため池、宇宙科学館、これは調整池、ここら辺にあるんですけども、ここ一体を保養村と言います。これはもう当たり前のことなんですけれども、保養村なんですけれども――ちょっと次に行きます。

保養村のことはちょっと横に置いておいて。今、トップページでしたんで、頭の隅にちょっと置いておいて、景気対策のほうをちょっと先にやらせていただきます。

市がいろんなこと、新生活様式とか家賃補助、いろんなことをやっているのも物すごく助かっていらっしゃる。G o T oキャンペーンも旅館にとっては、本当に水をいただいたような感じでやられていると思います。

そういう中で、また新型コロナウイルスの第3波が来て、本当に大変になってきました。

年を越せるかなという声がいっぱい聞こえます。やっぱり年を越せない、今まで補助で何とか頑張ってきた中であるんですけれども。

ちょっと1点だけなんですけれども、家賃補助で、雇用調整基金で、雇用調整助成金で従業員の給料が出る。でもね、武雄で持ち家でやっているところはどうなるんだろう。

都会はほとんど貸家方式です。オーナービルっていうのは少ない。でも田舎は、もちろん貸家ありますよ。貸店舗いっぱいあるんですけれども、オーナーが自分で家で、自分の店でやっているというのが多いんですね。従業員も家族。そうした場合は家賃補助も受けられない、雇用調整助成金も受けられない。

だから、今まで何も受けられていないところ、——もちろん持続化給付金とか、つなぎ給付金は受けられるけれども、そういう、途中、途中の補助が受けられないってところがあります。

例えばラーメン屋さんでも家族でやっている、うどん屋さんでも家族でやっている、家でやっている。家賃は自分のところだから。でも、よそはそういうふうにしてやっているけれども、そういうところもあるんですね。

ですから、この景気対策、ぜひ私は前から言っているんですけれども、もう一回、つなぎ給付金でもやらないと。景気対策というか、もう年を越せないところがでできますよと。

さっき言った、同じ商売をしても、持ち家、家族でやっている、もちろん飲食店だけじゃない、いろんな商売にしてもやっているところはなかなか補助金を受けられない、そういう援助がない。そういう中で、何とか年を越したいというところがあります。

ぜひそういうところに手を差し伸べていただきたい、そして、やっていただきたいという部分のお願いの質問ですけれども。

本当に大変ですよ。もう今、いろんなところでキャンセルが続出。これはもう飲食店とか何とかがメインですけれども。それに伴い、その人たちが何かを買おうとしたものまで。例えば車を買おうとしたけれども、ごめん、こういう状況やけんもう買い切れんけんって。窓ば修理しようと思うとったばってん、こういう状況ではもうできんよって。

だんだん景気全体が、真綿っていうよりも、もう鎖で締められるような感じで、急激に締められております。ぜひそういう部分で。市ができる部分をやっていただきたいと思います。

ごめん、ついでに今、思い出しました。先ほどの移住対策のところです。

昨日、夜、政府があれだったですよ、東京から移住したら100万円補助出しますって、何か言ったんですよ、多分。武雄も、ぜひそれで頑張ってください。

さっきの空き家対策のところと言わんげいかんとを今、思い出して、ちょっと途中で申し訳なかったんですけれども、ぜひ頑張ってくださいと思います。

この景気対策、再度、救いの手をお願いしたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（山口昌宏君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

東京から移住してきた方への100万円というのは、我々もそういう国の仕組みについてはこれまでも活用しておりまして、活用していきたいなと思っております。

そして、景気対策なんですけれども、武雄市の考え方の基本は、本当に新型コロナウイルスの影響で生活が苦しい、本当に困っていらっしゃる方をしっかりと、とにかくタイミングを逸さずに支援するというのが基本であって、これまでもつなぎ給付金からテイクアウト、そして、各種の補助金などをしてきました。

今、全国的に感染が拡大している中で、武雄市も何とか踏みとどまってはいるけれども、いつ本当にこればかりは感染が拡大するかもしれない。さっきおっしゃったように、いろんな影響を受けて、忘年会がちょっと減ってきたりと、そういうところもあります。

私たちとしては、とにかくそういう状況を見ながら、先ほども言いましたとおり、タイミングを逸することなく、効果的な支援というのを今後、とにかく考えていきたいですし、その際には議会の皆さんにも御提案をして、ぜひ御審議もお願いしたいと考えております。

とにかく、時機を逸することなく効果的な支援をするという考えで、状況を見ながらやっていきたいと思っております。

○議長（山口昌宏君）

18番牟田議員

○18番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ぜひ時機を逸することなく、先ほど言いました年を越せないかもしれない、そして、テイクアウトにしろ、Go Toにしろ、1億円キャンペーンにしろ、例えばそれに当てはまらない、――さっきの繰り返し、繰り返しになりますけれども、飲食店とか、そういう以外の、商売しているところで、持ち家でやって、家族でやっているところは全くないんですね。

そういうところにも光と手を差し伸べていただきたいと思ひますし、担当課さん、ぜひ知恵を絞って、そして、財布を絞って頑張ってくださいと思ひまして、次の質問に移ります。

これは先ほど保養村を見せたんですけれども、保養村を何で見せたかというところ、新型コロナウイルスでも伸びているっていうところは、さっきの質問と逆、伸びているというのがあるんですね、やっぱり。

このアウトドアの需要、アウトドア業界はもうバブルじゃないですかね。キャンプ場に行けばテントがいっぱい張ってある。横のホテルはちょっと空いているけれども。

ちょっと調べたら、オートキャンプ白書というのがあるんですけれども、今、年間850万人に急激に増えたいです。年間850万人。これは延べ人数ですが、今年はさらにこの何割も伸びるだろうと、新型コロナウイルスで。そういう中で、このチャンスをひん握らんぎ

いかんわけですね。

よその自治体、例えば嬉野市もオートキャンプの整備とか、長崎市、佐世保市ももう計画として進められていると伺っております。

例えばこのキャンピングカー。キャンピングカーは自前で持っている人、そして、レンタルで借りる人がいます。レンタルで借りるもの、リターン率が今年に入って3割、4割、5割伸びているらしいです。このキャンピングカー。そして、このテント。アウトドア用品店、もう真っ盛り。例えばいろんなのが、こうできます。メーカーがあるんですけども、物すごく売れていると。

そういう中で、武雄もそういう需要、これはさっきの新幹線につながる、ハブ都市につながるわけですね。武雄もやっぱり、こういうふうなのに手を打っていったほうがいいんじゃないかと。

これから先、アフターコロナで需要が見込めるのは、やっぱりこういうアウトドアっていうのが出てくると思います。

このさっきの保養村。保養村というのは、今言った部分にもぴったりだと思います。

私、議員になったときに、これは前石井市長のときにやられたんですけども、平成1桁だったですよ。平成1桁のときにこれができて、当時、私が石井市長に質問したのが、何で保養村という名前なんですかって。宇宙科学館とか何とかいろいろなのに、ちょっと名前に奥ゆかし過ぎらんですかっていう感じで言うたら、牟田君ね、と。一応、保養村という名目でここを補助金もあって開発させていただいたと。ばってんが、あとは次の世代の人たちがここをどうやって生かすかちゅうとは、あんたたち考えんぎいかんとよと。次の世代の人たちがということで、言われておりました。

そういう中で、こことかオートキャンプとか、そういう物すごくいいと思うんですよ。

そういった市の土地も結構ありますよね。今、議長さんが提案されたこの調整池。これちょっと話したんですけども、調整池からここを、——ごめんなさいね、横に出て。マスクつけましょうか。——ここ調整池ですね。ここ池ノ内ため池、ここはせせらぎプロムナード、ここは堤なんですね。

堤なんですけども、ここは以前、漏水があったとき、直したんですよ。ここからもそうだから、ここまで下らせて、ここはすごい高いところなんで滝を造ってやればいいし、ここ市の土地も結構あります。地権者もそんなめっちゃ多くないところです。この開発を、新幹線の開業後とかフル規格になったときとか何とかというのをやれば、ここ伸びるんじゃないかと。

石井前市長がおっしゃっていた、次の世代があんたたち考えやと。私も年取っているんで、今、さらに次に世代の方が計画せんぎいかんとは思いますが、やっぱりそういう宝の山だと思います。

さらに、今、今度の議会で観光の企業設置条例みたいな感じが出て、我々は審議するんですけども、これは事前審査には当たらないと思うんですけども。

もし例えばそういうのができれば、観光でこちら辺に誘致ができるんですね。

例えばノースフェイスは無理かもしれないんですけども、国内メーカーのキャンプ用品と協力してここに進出いただいて、大がかりな九州のキャンプ場を向こうの金で造っていただくとかですよ、観光ですから、そういうのができるんじゃないかと。

そういうことを、ぜひ今後、計画していただきたいというのがあります。

ただ、これは早くやらないとよそがやられます。必ずやられます。嬉野市さんも緒に就き始めました、佐世保市も緒に就き始めました。武雄はまだ聞いていないのでとっていたら、今度、眉山キャンプ場のほうがやられるということなんですけれども。

そういう形で、やっぱり早急に、開業2年後ということになるんですけども、やっていただければと、計画を進めていただければいいと思います。

アフターコロナに合ったやつだと思いますし、設置条例も今度ありますし、この土地、場所的にもいい。さらに、いろんな周辺部では土地が余っているところがあるので、土地が余っているところがあったらオートキャンプとか、そういうのができると思います。そういうのを低予算、そんな建物を広く造るわけじゃないですから、あと、もちろんトイレは必要ですけども、温泉は武雄温泉に入ってくださいと。

そういうのでやっていただければ、今後の計画についてもいいと思うんですけども、いかがでしょうか。

○議長（山口昌宏君）

古賀営業部長

○古賀営業部長〔登壇〕

議員御指摘のアウトドアの需要の高まりというのが全国的に高いというのは、私どもも認識をしております。

まず、この保養村の現状でございますが、保養村の中でボート乗り場付近のいわゆる、もよおし広場につきましては、現在はキャンプ場としての使用許可は行ってはおりません。

しかしながら、先日行いました公共空間の利活用に関する社会実験、いわゆる武雄温泉千年夜市を開催した中で、保養村と中央公園をキャンプとして活用したらどうなるかということで試験的に行ったところでございます。

結果、保養村のほうに5組、5張りのキャンパーの方たちが集まられてキャンプをされましたけれども、非常に好評だったと伺っております。

このような状況を踏まえまして、私どもといたしましては、保養村全体を含めて、この公共空間の利活用につきましては、前向きに早急に検討をしていきたいと考えております。

○議長（山口昌宏君）

18 番 牟田議員

○18 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

このところですね、小さいところじゃなくて全体をやっていくような、そういう計画をやっていただきたいと思いますし、この調整池の完成と合わせるぐらいでもいいと思います。ぜひ遅れないようにアフターコロナに準備していただきたいと思います。

これも大きな観光の資源になると思います。

最後、電気自転車なんですけれども、今、免許を返納する方多いですね。それは地域対策とかでもそうなんです、免許返されんと。お店に買いに行くときに、うちは3キロ行かんぎいかんとばいっていうともあります。

何でコロナのところに出したかという、新型コロナウイルス感染症が始まって、この電動自転車というのの売上げが急激に伸びたらしいです。

先ほど言った、免許を返納した方がこれに変えるというのも物すごく増えていますし、実際、自転車屋に聞きに行ったら、増えているらしいです。持続化給付金で買われたとか、そういうのが。

こういうときに、例えば自転車の電動自転車を買うときに、そういう補助ができないものか。例えば1台当たり3,000円でも5,000円でも1万円でもいいです。そういうのが増えると免許返納も、さっき言ったように、遠くまで買いに行かなきゃいけないというのが一部除外されますので、どうかと思うので、お伺いします。

○議長（山口昌宏君）

庭木企画部長

○庭木企画部長〔登壇〕

議員御紹介のとおり、確かに密を避けるための手段といたしまして、自転車等の購入が伸びてきているというのは聞き及んでおります。

武雄市におきましては、4つの柱に沿って各種施策に取り組んでおります。

電気自転車購入支援が、新型コロナウイルス感染症対策として、有効性や効果性につきまして、まずは調査研究をさせていただきたいと存じます。

○議長（山口昌宏君）

18 番 牟田議員

○18 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ありがとうございます。最初に戻る、仕方なかじゃなくって、できる方向を探す。ぜひお願いしたいと思います。

ここはもういつものように、振り向くな、振り向くな、後ろには夢がないと。前を向いて頑張っていっていただければと思います。よろしくお願いします。

一般質問を終わります。

○議長（山口昌宏君）

以上で18番牟田議員の質問を終了させていただきます。

ここでモニター準備等のため、5分程度休憩いたします。

| | | |
|---|---|--------|
| 休 | 憩 | 11時6分 |
| 再 | 開 | 11時12分 |

○議長（山口昌宏君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、6番吉原議員の質問を許可します。御登壇を求めます。6番吉原議員

○6番（吉原新司君）〔登壇〕

（全般モニター使用）おはようございます。ただいま議長から登壇の許可をいただきましたので、6番吉原新司の12月定例会一般質問をさせていただきます。

早いもので、2020年、令和2年も師走に入りました。本来であれば今年、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、日本全国が大盛り上がりし、感動と興奮の年になるはずではなかったでしょうか。しかし、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、東京オリンピック・パラリンピックは来年に延期とされることとなりました。

また、東京オリンピック・パラリンピックの延期にとどまらず、世界中の経済や生活に大きく影響を及ぼし、今もなお世界各地で猛威を振るい続ける、国内でも第3波に突入をして、地域によっては医療崩壊への危機感が表面化するなど、先が見えない状況であります。

ここ武雄市は、昨年8月、豪雨災害に見舞われ甚大な被害を受けました。その復旧復興の半ばで今回の新型コロナウイルス感染症です。そして、今年9月には最大級の勢力と言われ接近してきた台風10号。誰もが最悪のシナリオを想像したのではないのでしょうか。

幸いにも甚大な被害には至りませんでした。3密を気にしながらも、身を守るために避難所へ行かれた方が多数おられたようです。

私はこの新型コロナウイルス感染症、これも災害と同じではないかと思っております。

市民の皆さんからよく聞く言葉、令和に入って全くよかことのなかねと。まさにそのとおりだと思います。

昨年8月の豪雨災害以降、子供も大人も高齢者の皆さん誰もが楽しみにしていたこと、全くできない。やりたかったけれどもできなかったと、そういう状況下です。

一刻も早く新型コロナウイルス感染症が収束して、来年こそ穏やかで幸せを実感できる年であってほしいと心から願うところでございます。

今回の一般質問は、市政についてということで、1つ目、冒頭に災害について触れましたが、災害への備えについて。そして、2つ目に環境についてを行いたいと思います。

早速、1つ目の災害への備えについて。

防災についてではなく、災害への備えについてとしたのは、近年、各地で頻繁に発生する自然災害を目の当たりにし、人の力ではどうすることもできない自然の力の大きさ、恐ろしさを、メディアを通して再確認させられたからです。

防災というのは災害を防ぐことであって、自然を抑え込むことはできません。そのため、災害が起こってしまったときにどうするかということが重要なのではないかと思います。

今年の6月定例会の一般質問において、広い駐車場を有する競輪場一帯も今後の災害を見据えて防災拠点として位置づけしておくべきではないかという質問をいたしました。

その後、何らかの進展があったのか、まずお尋ねいたします。

○議長（山口昌宏君）

諸岡総務部理事

○諸岡総務部理事〔登壇〕

議員御質問の6月議会での御指摘、競輪場を防災拠点としてという御指摘についてですが、6月議会以降、競輪場の防災拠点としての活用について、杵藤地区広域市町村圏組合消防本部及び武雄消防署、こちらの代替施設として令和2年8月4日に覚書を交わしております。

○議長（山口昌宏君）

6番吉原議員

○6番（吉原新司君）〔登壇〕

杵藤地区広域市町村圏組合消防本部、武雄消防署、覚書を交わしたということで、競輪場も防災拠点の一つとして加われば、大規模災害発生時、警察の広域緊急防災隊や消防の緊急消防援助隊、そして、自衛隊の活動拠点として多くの役割、大きな役割を果たしてくれるのではないかと思うところです。

防災拠点の充実は市民の安心にもつながると思います。そして、行政としても災害対応の充実が図れると思いますので、維持管理もしっかり行い、災害への備えを整えていただきたいと思います。

そこで、現在、東川登町に令和4年完成を目指し新球場が建設されております。

その新球場が完成後、今、災害等が発生した場合、新球場も何らかの防災拠点として考えられているのかお尋ねをいたします。

○議長（山口昌宏君）

諸岡総務部理事

○諸岡総務部理事〔登壇〕

議員御提案の新球場についても、敷地内の防災拠点としての活用の方法は考えられるため、設置場所等の利点を生かした活用を検討していきたいと考えております。

○議長（山口昌宏君）

6番吉原議員

○6番（吉原新司君）〔登壇〕

考えられているということですね。

膨大な予算を投じて建設している球場ですので、球場内を防災拠点にするということはなかなか難しいところもあるかと思えます。

しかし、基本設計の中で約130台収容の駐車場、それと——モニターに出してありますけれども、——公園のほうも広く取られているようです。そして、この場所は高い場所にあるということで、冠水する心配はないのではないかと思います。

また、災害発生時は特に、東川登町、西川登町の皆さんの安心につながるような防災拠点であることが求められるのではないかと思います。

このようなことを考えた上で、新球場の防災拠点としての役割を完成までにしっかり打ち出していきたいと思えます。

今、競輪場や新球場を取り上げて、大規模災害が発生した際の防災拠点の充実を申しましたけれども、それ以外の公共施設等についても防災拠点となり得る施設等があれば、検討もしていただきたいと思えます。

次に、災害の備えとして考えておかなければならないと思うのは、昨年8月の豪雨災害後に発生した膨大な量の災害ごみです。

モニターに出しているのは災害ごみ仮置き場の写真となります。

このほか、市内数か所に臨時の災害ごみ仮置き場を設け、受入れしたわけですがけれども、その中には本来スポーツを楽しむ場所であったり、周辺に民家が立ち並んでいるような場所もございました。そのような場所に災害ごみが山積みの状態になったわけです。

災害ごみには臭いを発するものもございます。それに、小型家電もたくさん出されているようでした。

皆さん御存じのとおり、小型家電に内蔵されているリチウムイオン電池、これは衝撃などが加わると発火、爆発、そういうこともあると言われております。火災にもつながりかねません。災害ごみにはそのようなものも含まれております。

そんな災害ごみの発生に対しても備えておくべきではないかと思います。

周辺に民家が少なく、あまり人目に触れないような、しかるべき広い場所を確保しておく必要があるのではないかと思います。

いつ来るか分からない災害に対して、そこまでと思われるかもしれませんが、今後の大きな災害を想定した上で準備しておくべきではないかと思います。

モニターに出しているように、平時の際は、多種多様な訓練や講習会等にも活用できるのではないかと思います。

武雄市として、災害ごみが発生するような災害を見据え、災害ごみの仮置き場ではなく、集積拠点を考えておくべきではないかと思えますがいかがでしょうか。

○議長（山口昌宏君）

高倉環境部長

○高倉環境部長〔登壇〕

おはようございます。議員お尋ねの、災害における平時のごみ置き場の確保ということで伺っております。

令和元年度8月の豪雨災害を踏まえまして、本年度につきましては、前回、仮置き場に利用させていただきました杵藤クリーンセンター跡地及び南永野採石場跡地について、災害ごみの一時仮置き場の使用について承諾を得て確保をしているところでございます。

しかしながら、大規模災害発生の場合は、大量の災害ごみにつきまして一時仮置き場の確保が必要になります。

現在も新たな場所の確保に向け、市内での候補地を選び、その箇所について調査をし、まずは一時仮置き場の確保に努めている状況でございます。

○議長（山口昌宏君）

6番吉原議員

○6番（吉原新司君）〔登壇〕

2か所とは承諾を得ているということで、ほかにも検討をしているということですよ。

取りあえず、2か所は承諾していただければ、災害が起きた際、取りあえずはということはあると思いますけれども、武雄市独自で確保ができれば、先ほど申しましたように、平時の際は、自主防災組織や消防団が消防署と連携し、大規模な災害を想定した訓練もできると思いますし、消防団の夏期訓練をはじめとするいろんな訓練、また、大会会場としても利用できるんじゃないかと思います。また、災害時のドローンの活用を見据えた訓練、講習会としても活用できるんじゃないかと思います。

画像のほうにはドローンを使った訓練等も載せておりますけれども、そういうことにも使えるんじゃないかと思います。ドローンに関しては災害だけではなくて、測量や農薬散布などの面でも注目をされております。そのような研修会等も行えるんじゃないかと思います。

ぜひ武雄市独自で災害ごみ集積拠点の確保を検討していただきたいというふうに思います。

次に、避難所について幾つか質問をさせていただきます。

近年、避難準備、避難指示、避難勧告などの呼びかけをよく耳にするようになったと思います。また、その頻度も多くなったと感じておられる方が多いのではないのでしょうか。

その背景には、自然災害が激甚化していることにあると思います。

モニターに出しているのは、過去5年間で避難所を開設した回数です。

平成28年度6回、平成29年3回、平成30年度6回、そして昨年、令和元年度5回。

5回となっておりますけれども、これ昨年8月の豪雨災害の避難が入っております。長期

間にわたる避難所運営、これが入っております。

そして、令和2年度、今年度9回ですね。

全国的に今年の避難所開設では感染予防対策を取りながらの避難所運営が求められ、避難所では検温、手指消毒はもちろん、3密を避けるために定員を減らすというような対応が取られております。

そこに最大級の勢力で接近してきた台風10号、それに伴う避難所開設がなされたわけです。

定員を減らした結果、避難所が定員を超え、急遽、追加の避難所が開設されたようですけども、市内全域が対象で避難を呼びかける、そういう場合であれば、最初から各町複数の避難所を準備して開設すべきだったのではないのでしょうか。

モニターに出しておりますのは、武雄市の指定避難所一覧になっております。

水色で表示しているところは1次避難所として9か所、ほか2次避難所として17か所、計26か所の指定避難所がございます。

市内全世帯避難を呼びかけるのであれば、最低でもこの26か所、最初から開設しておくべきではなかったかと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（山口昌宏君）

諸岡総務部理事

○諸岡総務部理事〔登壇〕

議員御質問の、まずは避難所の開設についてでございますが、こちらは避難勧告等の発令、災害や気象状況に応じ、順次開設することとしております。

御指摘の台風10号に関してですが、これに併せてコロナ禍という現状の中、避難として地区の公民館、車中への避難、垂直避難、知人・親戚宅への避難なども呼び掛けており、今回の台風10号に関して、状況に応じた避難所開設を行い対応ができたものと考えております。

○議長（山口昌宏君）

6番吉原議員

○6番（吉原新司君）〔登壇〕

マニュアル通りで対応ができたという答弁でしたけれども、先ほど申した、避難所が定数を超え、急遽、追加の避難所を開設したと。これは新聞に書かれていた武雄市の部分なんですよね。定員を超えたため、急遽、追加の避難所を開設したと新聞に書かれておりました。

スムーズに開設していったっていう感じにはちょっと受け取られないんですけども、結局、避難所を次から次に出していったということは、指定避難所に行ったけれども、満員になって次の避難所を開設しましたのでそちらのほうへ行ってくださいと言われた方もいるのではないかと思います。

昨年の8月豪雨での避難者の数を大きく上回る人数だったと聞いておりますが、そこは想定しておくべきだったのではないかと思います。

豪雨の場合は、家の近くに山があって崩れるかも分かんないとか、近くに河川があってあふれたら家が冠水するかもといった理由で、まず避難をされます。そういう方がほとんどだと思います。

しかし、今回、かつてない勢力で接近し、大雨にも警戒が必要だと事前に報道がなされていたわけです。住んでいる場所が土砂崩れの心配もなく、河川からも離れているので浸水の心配もないという方々でも、台風においては屋根が飛ぶかも、ガラスが割れるかも、看板、電柱が倒れるかも、様々なことを想定して避難を選択された方が多かったと思います。

避難所開設には、先ほど答弁にはありませんでしたけれども、開設すれば、開設するほど、職員さんの数がたくさん必要になると思います。

1次避難所である9か所を開設するのと、一気に26か所を開設するのでは職員さんの数、3倍近く必要になると思います。そして、今年はコロナ禍ですので、1か所に配置する職員さんの数もどうしても増やさなくてはいけないという状況じゃないかと思います。

そこで、今回のように全世帯避難を呼びかけるような場合であれば、そういうことに備えて職員さんをサポートする体制が必要じゃないかと思います。

避難所の運営、指示、そこら辺はもちろん職員さんでなくてはできないと思いますけれども、物資の搬入、雑用などは職員さんでなくてもできるのではないかと思います。その開設した避難所でお手伝いしてくれる人が地元の方だったということであれば、その職員さんもまた心強いのではないかと思います。

例えば自主防災組織や消防団から数人でも避難所の対応についていただけるようにすれば、1か所に配置する職員さんの数も少なくてもよいのではないかと思います。

災害が起きれば、もちろん自主防災組織、消防団も活動すべきことが出てきますけれども、ほんの数人配置することは可能ではないかと思います。

今、自主防災組織とか消防団、これを取り上げましたけれども、武雄市には非常勤の特別職公務員と位置づけられておる団体が幾つかあると思います。そのような団体でも避難所開設の際、職員の手が足りない場合はお手伝いしていただけるような体制づくり、これが必要ではないかと思いますけれどもいかがでしょうか。

○議長（山口昌宏君）

諸岡総務部理事

○諸岡総務部理事〔登壇〕

議員のほうから御指摘ありました避難所の運営に関しまして、職員の配置は必須ということになるかと思います。

こちらの配置に関しまして、職員の配備計画を基に計画のほうを策定している状況でござ

ざいます。

そのほかに、避難所において、職員だけではなくて、避難された方々、避難者一人一人ができることもあろうかと思えます。例えば今、導入しております新型コロナウイルス感染症に対応するための間仕切り、ベッドの設置または消毒、清掃、こういうものが長期的になれば必要になってくるということもあろうかと思えます。

こういうものも避難者一人ができることということで、職員と避難者で運営する避難所を武雄市のほうでは目指しているというような状況でございます。

さらに、御指摘のありました職員のサポートということで、自主防災組織、消防団ということで御紹介ありました。

自主防災組織においては、今回の台風 10 号においても自治公民館等を開設して避難されているということもお聞きしております。

さらには、消防団ということですが、長期化になった場合にはいろいろとお願いをすることもあろうかと思えます。

さらに、先ほど御指摘のありました職員に関しましても、今後、できれば協議を進めていきたいと考えております。

○議長（山口昌宏君）

6 番吉原議員

○6 番（吉原新司君）〔登壇〕

なるべく職員でやるということですね。そして、避難されている方に御協力をいただくと。今後、自然災害がどれだけ甚大化してくるのかというところが心配されます。

本当に職員さんの数、そして、避難してこられた方がどれだけ対応していただけるのか。

今回、二十何か所やったですかね、結局は開設しているわけですがけれども、これがまだ足りない、まだ足りないというような状況が来るかも分かりませんので、最悪の場合、パターンを想定した上で職員さんをサポートする形づくり、体制づくりを検討しておいたほうがよいと私は思います。ぜひお願いします。

市長が写っていますけれども、――避難所では今年から段ボールでできた間仕切り、ベッド、これが用意されておりました。

昨年 8 月の豪雨災害の長期間の避難生活を受け、避難者のプライベート空間の必要性和感染症対策の下、サガシキ様と共同開発され、配備されたようです。

そのサガシキ様と協定を結んだ数日後、早速、台風 10 号に伴う避難所開設となったわけです。

調印式の新聞では、500 セット購入してあると書いてありました。

モニターに出しておりますのが、台風 10 号に伴う避難所開設です。

避難箇所、避難世帯数、人数が書かれておりますけれども、指定避難所では 22 か所、568

世帯、1,323人が避難、自治公民館などのその他の避難所に57世帯、117人、合計しますと617世帯、1,440名が避難をされております。

段ボール間仕切り、段ボールベッド、避難されてきた方が相当多いわけですがけれども、皆さんに十分行き渡ったのか、また、利用されてみて、——たくさんの方が利用されたと思います——された上で、利用者からどのような評価があったのか、そしてまた、改善点等は見えてこなかったのかお尋ねをいたします。

○議長（山口昌宏君）

諸岡総務部理事

○諸岡総務部理事〔登壇〕

先ほど、職員のサポートの部分で、すみません、紹介するのが1点漏れておりましたので、1点御説明しますと、この職員をサポートする体制、避難所の長期化、こういったときは他自治体からの応援協定等により来ていただいている場合もあります。他自治体のところの協定も今後、増やしていければと考えています。

それと、今、御質問いただきました3点についてでございますが、まず、段ボールベッド、段ボール間仕切りについては市で500セットを確保しておりました。しかしながら、避難者全てに行き渡らせることはできなかった状況となっております。

この使った方々の意見といったところでございますが、使用された方からは、今回、コロナ禍といった状況もありまして、感染症対策も取れ、また、プライバシーの確保ができた、非常によかったという意見を多くいただいております。

また、改善点といったところですが、やはりこの間仕切りと段ボール、重量がございます。この重量について、搬送に多くの人手がいるようなところが課題となっております。

現在、先ほど御紹介いただきました、協定を結んでおります事業者、サガシキ様、こちらのほうで軽量化を検討されているという状況でございます。

この軽量化が図られれば、避難所運営というものがスムーズになろうかと考えております。

○議長（山口昌宏君）

6番吉原議員

○6番（吉原新司君）〔登壇〕

追加で言われましたけれども、長期間での避難という場合にはよその自治体からの応援ということですね。

長期化になれば、やっぱりよそからでも来ていただかないとは思いますがけれども、九州全体が被災するような大きなものが起きれば、近くからでもちょっとなかなか難しい点もあるのかなと考えます。

そして、先ほどの段ボールベッド、間仕切り、全部には行き渡らなかったということですね。追加、追加で搬入はされていたみたいですがけれども、100%ではなかったと。まあ評価は

よかったと。重量的な問題があるということで、ぜひ改善すべき点は速やかに改善して、今後の避難所開設に備えていただきたいと思います。

今回の台風 10 号で避難所が開設されたことを受けまして、地元の朝日小学校体育館へ行ってみました。私が行ったときにはまだ雨風はさほど強くはない頃でしたけれども、既に数世帯の方が避難をされておりました。

市の職員さんと話す中で、今回はちょっと避難されてくるのが早いですねと。コロナで定員を減らしておりますので、ちょっと満員にならないか心配ですというような話をしまして避難所を出ました。

翌朝、ある程度、雨風が収まった頃に再度、朝日小学校体育館へ行ってみると、結構もう帰っておられる方も多かったです。数世帯しか残っておりませんでした。

職員の方に避難所の状況を聞いたところ、定員ぎりぎりでしたと。それと、雨漏りが結構ありましたということでした。

雨の降り方にもよりますけれども、この朝日小学校体育館は、度々雨漏りがいたします。昨年 8 月豪雨の際も雨漏りが確認をされております。何度か業者さんが入って補修もされているようですけれども、いまだに直っておりません。

避難所一覧を見ていただくと分かりますけれども、朝日町には 1 次避難所の朝日小学校だけしかございません。その唯一の指定避難所は雨漏りがするわけです。

雨漏りの中に、段ボールでできた間仕切り、段ボールでできたベッドを置いて、避難所を過ごす。この状況、どういうふうに思われますか。

○議長（山口昌宏君）

諸岡総務部理事

○諸岡総務部理事〔登壇〕

議員御指摘の朝日小学校の体育館は先ほど議員のほうからもお話がありましており、雨の状況によっては雨漏りがあるといったところかと。台風 10 号においても、やはり雨漏りがあったということでございます。

こちらの雨漏りがあってる内容では、全体的に雨漏りがないといった状況から、段ボールベッド、段ボール間仕切り、この雨漏り箇所を避け設置し、対応したという状況でございます。

○議長（山口昌宏君）

6 番吉原議員

○6 番（吉原新司君）〔登壇〕

雨漏り箇所を避けて配置をしたと。決して好ましい状況ではないのではないかと思いますけれども。

朝日町では今、2020 年の完成を目指し、朝日公民館が新築工事を行われております。

朝日公民館が完成すれば1次避難所に指定されると思いますけれども、今回の台風10号に伴う避難者、47世帯、97名ですね、この人数は、朝日公民館が完成しても、受け入れるのは不可能な数だと思います。そのため、朝日小学校を第2避難所として使わざるを得ないのではないかと思います。

また、避難所とは別問題としても、体育館は学校の体育などの室内事業、もちろん、学校全体の行事、式典にも使う場所でございます。

モニターで出しておりますのは、武雄市内小中学校体育館の建築年です。

左側は大規模改修が行われていない体育館で、建築年と年数を表示しております。右側は大規模改修が行われた体育館で、建築年と年数、そして、大規模改修年とその後の年数というのを表示いたしております。

見て分かりますように、この朝日小学校体育館、大規模改修工事も行われず、33年が経過いたしております。市内の小中学校体育館の中で老朽化しているだろうことが分かります。

また、この中には30年たつたないかで大規模改修されている体育館もあることが見てとれると思います。

昨年12月の定例会の一般質問で、吉川議員さんからも建て替え、もしくは大規模改修の計画はないのかという質問がございましたけれども、そのときの答弁では、アセットマネジメントにおいて計画は今のところないという答弁だったと思います。

近年の避難所開設の頻度、そして、学校教育の場として、また、地域からも老朽化への懸念が言われております。雨漏りのする朝日小学校体育館建て替え、もしくは大規模改修を真剣に検討すべきではないかと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（山口昌宏君）

牟田こども教育部長

○牟田こども教育部長〔登壇〕

朝日小学校の体育館については、議員おっしゃいましたように、現在、策定済の令和8年度までのアセットマネジメント個別施設整備計画の中では、改築や大規模改修の予定はございません。

体育館の改修状況でございますけれども、これまで市内、他の学校の改修状況は、耐震や老朽化に伴う改修、それから、校舎改築に合わせて改修をまいりました。

今期計画の中では、適切な維持管理を行い、許容限界まで維持をしていくとしておりますけれども、雨漏りも発生しておりますが、雨漏りの原因については、業者のほうからも、実際に雨が降ったときでないと確認がしづらい、分かりにくいとの指摘を受けておりますので、今後、雨漏りが発生したときに原因を追及し、早急な対応をしていきたいと考えております。

○議長（山口昌宏君）

6 番吉原議員

○6 番（吉原新司君）〔登壇〕

なかなか雨漏りというのは分からない。昨年8月の豪雨の後も一回、業者さんに見ていただいているということをちょっと聞いておるんですけども、そのときも結局、分からなかったと。今回もまた雨漏りをしたと。

なかなか難しいところではあるかと思えますけれども。

モニターに出しておりますのは、平成20年以降の市内小学校の生徒数の推移でございます。

学校名は、平成20年のときに生徒が多かった順に並べております。

この朝日小学校、一度は平成22年に399人まで減りましたが、その後、徐々に生徒数を増やし、今年度は430名ですけれども、昨年度は445名生徒がおります。

生徒の多い順から、赤、青、黄と色をつけておりますけれども。

平成25年度までは北方小学校に続き3番目だったんですけども、26年度以降は北方小学校を抜いて、2番目に多い生徒数ということになっております。

そして、朝日町では、甘久地区、中野地区、この辺りでは新築の家がまだ増え続けております。そういう状況です。そして、朝日町は豪雨災害を受けやすい場所ということになります。

そのようなことから、朝日小学校の体育館建て替え、もしくは大規模改修、前向きに検討していただきたいと思うところです。

次に、災害時に考えておかなければと思うのは大規模停電です。

近年、武雄市で災害等で大規模な停電は起こっておりませんが、これは想定しておくべきではないかと思えます。

停電は台風、地震などが主な原因になるかと思えますけれども、何らかの大きな事故、これでも大規模停電は発生する可能性はあると思えます。

国内で記憶に新しい大規模停電は2018年、平成30年9月、最大295万戸が停電した北海道胆振地方東部地震、そして、2019年、令和元年9月、関東地方を中心に2週間以上にわたり最大93万戸が停電した台風15号。

電気に依存している私たちにとって、長期間の停電、これは大きな苦痛になると思えます。

先ほど市長さんの牟田議員さんへの答弁の中に、天ヶ瀬で停電して電池を配られたというような話もされましたけれども。停電をしたと、また、それが災害によるものということになれば皆さんパニック状態に陥るのではないかと思えます。

現在、武雄市において、大規模停電を想定し、避難所の対応はどのように考えられているのかお尋ねをいたします。

○議長（山口昌宏君）

諸岡総務部理事

○諸岡総務部理事〔登壇〕

議員御質問の大規模停電の際の電源確保についてでございますが、大規模災害時には武雄市災害復旧に関する覚書としまして、武雄市と九州電力と交わしております。この内容に基づき、長期停電時には電源車の優先配置が行えるようになっております。

また、停電時には最低限の電源確保、明かり取りとか携帯電話の充電に関して電源供給ができるように、小型の発電機を備蓄計画に基づき配備するよう計画をしております。

また、公用車などの車の電気、これを100ボルトに変換できる機器、それを活用して携帯電話等を充電する機器として、こういったものも準備を行っているような状況でございます。

○議長（山口昌宏君）

6番吉原議員

○6番（吉原新司君）〔登壇〕

九州電力と覚書を交わされておると。発電、電源車を手配していただけるということですね。

一時的な停電であれば、発電機とかそのあたりでも補えると思いますけれども、長時間にわたってきますと、どうだろうか。エンジンを使って発電をするというのは、やはり燃料が要りますので、使用時間に限りがあるのではないかと思います。

燃料を買うにも、大規模停電、長期の停電であればガソリンスタンドの機械も動かないと。九州電力の電源車も多分、エンジンを回して、そのエンジンの回転で電気を起こすという仕組みだと思いますので、燃料が切れればどうなるのというところはございます。

そして、CO₂削減を掲げる国の考え方にも、エンジンを回して発電して難をしのぐというのはどうなのかなど。

ガソリンエンジン、ディーゼルエンジンがなくなるというような報道もなされている最近でございます。5年、10年後、エンジンを回して発電をするということ自体、もしかしたらなくなっているかも分からないと思います。

そこで、指定避難所に太陽光発電と蓄電池を設置して、停電が発生した際、速やかに蓄電池にある電気を供給し、そういうことができれば避難所に避難されている方々の安心につながるのではないかと思いますし、避難所運営にも支障が出ないのではないかと思います。

指定避難所のほとんどが公民館や学校ですので、太陽光発電をつけていれば、発電した電気を昼間は使っているし、蓄電池まで備えていれば、夕方、暗くなってからの照明などの電力にも使われると思います。自然エネルギー、再生可能エネルギーを使うことでCO₂削減にもつながると思います。

防災の面からも環境の面からも、太陽光発電と蓄電池の設置を考えるべきではないかと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（山口昌宏君）

諸岡総務部理事

○諸岡総務部理事〔登壇〕

避難所に設置すべき自然再生エネルギーといったところの御提案ですが、避難所となるところへの太陽光パネルの設置、蓄電池の配備については設置箇所となるところの強度の確認、補強工事、さらには導入経費、こういう費用もかさむため、整備に当たっては非常にハードルが高いと認識をしております。

現段階では考えていない状況でございます。

○議長（山口昌宏君）

6番吉原議員

○6番（吉原新司君）〔登壇〕

なかなか難しいという答弁でしたけれども、現に避難所に太陽光発電と蓄電池を設置している自治体もございます。

モニターに出している写真は、大分県内のある自治体で、ここは企業と連携協定し、設置をされているようです。

屋根じゃなくてはいけないということでもないんですね。例えば駐車場でもいいし、屋根が可能だったら屋根、避難所に電気を送れば公共施設のどこかに太陽光発電を置ければいいと思うので、屋根の耐震というのはそこまで考えなくてもできないことはないのかなというふうに考えます。

災害への備え、そして、低炭素化社会への貢献、これにもつながるのではないかと思います。

国のCO2削減に取り組む自然エネルギーを重視いたしております。国の補助金を使えるような事業も出ているようです。

佐賀県として、佐賀県で最初にゼロカーボンシティを宣言した武雄市として考えるべきではないかと思っておりますので、ぜひ検討もしていただきたいと思っております。

次に、自動車避難について質問に入ります。

昨年、8月豪雨災害では相当な数の自動車が冠水し、保険会社から全損と判断をされ廃車になった自動車が大量に発生いたしております。

そのため、今回の台風10号に伴う避難では、自動車を早めに安全な場所に移動させようという動きが多かったようです。

今回、立体駐車場が本当に注目をされました。

立体駐車場というのは、2階以上は冠水の心配が少ないわけです。左の写真ですね、1階部分は冠水しておりますけれども、2階は全く安全な場所ということになります。そして、暴風で何か飛んできて車に物が当たるというのを避けることができるわけです。

報道では、今回の台風 10 号で、パチンコ店や大型商業施設の立体駐車場を自動車の避難場所として開放されていたということが紹介をされておりました。

武雄市においても、自動車の避難を受け入れていただいた店舗があったとお聞きをいたしております。

大雨や台風の際、立体駐車場は自動車を守る役割ができます。現在、武雄市で立体駐車場を有する施設と、大雨や台風の際、市民の自動車避難を受け入れていただけるような協定などは結ばれているのかお尋ねをいたします。

○議長（山口昌宏君）

間もなく正午となりますが、一般質問をこのまま続けます。

諸岡総務部理事

○諸岡総務部理事〔登壇〕

立体駐車場がある施設との協定についてでございますが、現在、市では立体駐車場がある施設を管理しているところとの協定締結は行っていない状況でございます。

昨年の 8 月豪雨災害も先ほど御指摘のありましたとおり、車両避難が課題とあるため、市内の立体駐車場がある施設と今後、協議のほうを行いたいと考えております。

○議長（山口昌宏君）

6 番吉原議員

○6 番（吉原新司君）〔登壇〕

現時点では協定を結ばれていないけれども、今後、進めていくということですね。

やはり最近、自動車をお持ちの方は車を早く避難させたいという方が結構おられます。そして、分散避難という方法もありますので、車中泊避難の方法としても立体駐車場は使えるのではないかと思います。

御存じのとおり、武雄市内の施設で立体駐車場を保有しているところというのは本当に少ないです。そこで、武雄市独自としても立体駐車場を考えてはどうだろうかと思っております。

職員駐車場の一角を立体駐車場にして、通常は職員駐車場、大雨、台風などの際は、市民の自動車を車中泊避難所として活用できるのではないかと思います。武雄市として独自で立体駐車場を建設してみてもと思っておりますが、いかがでしょうか。

○議長（山口昌宏君）

諸岡総務部理事

○諸岡総務部理事〔登壇〕

市で立体駐車場を建てる計画は現段階ではございません。

先ほど御答弁いたしましたように、立体駐車場を所有するところと協定のほうを進めてまいりたいと思っております。

○議長（山口昌宏君）

6 番吉原議員

○6 番（吉原新司君）〔登壇〕

よろしくお願いします。

次に、環境についてに入りたいと思います。

今年7月からレジ袋有料化が始まりました。

この背景にはプラスチックごみによる海洋汚染問題が大きく関わっております。国もこの問題に対して取組を強めているようです。

武雄市としては、2015年パリ協定を受け、平成30年度に武雄市地球温暖化対策事務事業計画はあるようではございますけれども、プラスチックごみに特化した取組というのはあまり見えないような気がいたします。

レジ袋有料化を受け、レジ袋大幅削減を目標とした取組を行ってみたいと思います。

スーパーやコンビニ等を見ておると、マイバッグを使われている方が増えられました。しかし、やはりレジ袋を使われている方がちょこちょこおられます。

よく聞くのは、マイバッグ、買物に行く際は持っていくんだけれども、ほかの用事で出かけて、ついでに買物して帰ろうというときは忘れているもんねということをよく聞きます。

そのようなときはレジ袋を使われているみたいではございますけれども、そして、価格も数円程度、大きな負担には感じられていないんじゃないかと思っております。

全国的にマイバッグ利用を呼びかけられておりますが、マイバッグ自体もポリエステルやナイロンといった石油由来のものを使えば、古くなって壊れたりして処分する際はプラスチックごみになってしまう、決して環境にいいわけではないということも言われております。

環境に優しい天然素材を使用したマイバッグこそが、エコバッグと呼べるのではないかとと思っております。

そこで、武雄市として、天然素材、自然素材を使ったエコバッグの推奨を行ってみたいと思っております。

市報など、ケーブルワンなどで、環境問題を考え、お買物の際に使用するマイバッグはオーガニックコットンなどの天然素材、自然素材で作られたバッグをお勧めしますとかいったことを行ってはどうかと思っております。

そして、マイバッグをお持ちでない方、忘れてきた方はレジ袋を購入するのではなく、紙袋を普及させてみてはと思っております。市内の店舗の方々に、レジ袋ではなく紙袋を利用して、お願いしてはと思っております。

いろいろ調べてみますと、古紙使用率100%でも丈夫な紙袋を作って販売されているところもあるようです。

紙袋といえば、先ほどのサガシキさん、専門分野だと思います。そこら辺の知識等、意見等を聞いて、武雄オリジナルの紙袋ができないものかと思っております。

そして、右側の段ボール箱ですね。

買物をした後に、陳列の終わったダンボール箱を使わせていただければもうレジ袋もマイバッグも要らないと。そういう協力してくれる店舗がないのか、武雄市として段ボールを使っていいよというような店舗はないのか、相談してみてもいいと思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（山口昌宏君）

高倉環境部長

○高倉環境部長〔登壇〕

本年7月からレジ袋有料化が始まりました。市内においても、マイバッグの利用については買物によりやく定着をしてきたところだと思っております。

市としては、これからもマイバッグの活用を推進していきたいと考えているところでございます。

今、議員から御提案いただきましたマイバッグの素材については、使う方がより使いやすい素材を選ばれるものと考えております。また、紙袋への使用の転換でございますが、あわせて、段ボールの利用についても事業者側の判断で行われるものと考えております。

市としては、現時点では、御提案いただきました取組については考えておりません。

しかしながら、議員からの御提案については、今後の環境に対する施策の一つの案として参考にさせていただきたいと考えております。

○議長（山口昌宏君）

6番吉原議員

○6番（吉原新司君）〔登壇〕

プラスチック削減問題、環境型社会、そこら辺を考えた上で、ぜひ検討もしていただきたいと思っております。

次に、リサイクルセンターについてです。

平成13年から稼働をしているかと思っております。20年になります。リサイクルセンター。

機械の老朽化というのも、20年といえば考えるんですけども、一般廃棄物の処理に関しても、国の考え方も当初とはちょっと変わったんじゃないだろうかと思っております。

稼働から20年、特別問題もなく稼働を続けて、今後も今の状態で行くのか、まずはお尋ねいたします。

○議長（山口昌宏君）

高倉環境部長

○高倉環境部長〔登壇〕

武雄リサイクルセンターにつきましては、平成12年に建設をいたしまして、現在、20年が経過をしているところでございます。

現在は、運営を継続するために修繕等を計画的に行い、機械設備等の機能維持に努めている状況でございます。

もう一点、今後の在り方についてでございますが、リサイクルセンターの今後の運営については、武雄市個別施設計画等にも記載をされておりますが、民営化の方向でこれから検討していきたいと思っております。

○議長（山口昌宏君）

6番吉原議員

○6番（吉原新司君）〔登壇〕

民営化を考えられているということですね。

あそこで取り扱われているのは缶、瓶、ペットボトル、この3品目に限るでよろしかったですか。

○議長（山口昌宏君）

高倉環境部長

○高倉環境部長〔登壇〕

武雄リサイクルセンターで対応しているものにつきましては、開設時から缶、瓶、ペットボトルを行っております。

現在も回収品目に変更はございません。

○議長（山口昌宏君）

6番吉原議員

○6番（吉原新司君）〔登壇〕

民営化を考えられているということで、どうなのかなと思いますけれども、国の考え方を見ておきますと、プラスチックもリサイクルできるものはリサイクルしましょうよというようなこともございます。

ペットボトルだけがプラスチックごみなわけですよ、あそこで扱っているのは。もっとほかのプラスチックごみもリサイクルに、市としても努めるべきじゃないかと思えます。

ほかのペットボトル以外に、例えば卵パックとかプラスチック容器、そこら辺のものを、まずは1種類でも2種類でも、リサイクルセンターでリサイクルできる項目を増やすという考えはないでしょうか。

○議長（山口昌宏君）

高倉環境部長

○高倉環境部長〔登壇〕

プラスチック以外の回収品目を増やすということは、市民にこれまで以上の複雑な分別をお願いすることになりますので、現時点では、プラスチックの品目を増やすことは考えておりません。

○議長（山口昌宏君）

6番吉原議員

○6番（吉原新司君）〔登壇〕

それ以上のことは考えていないということですね。

CO2削減とか循環型社会、今後を考えた上で、プラスチックのほかの品目までやるということ考えたほうがいいんじゃないかと思います。

最後に、ゼロカーボンシティについてお尋ねをいたします。

佐賀県において、武雄市は一番にゼロカーボンシティに手を挙げられております。

現時点で、ゼロカーボンシティとしてどのような取組をなされているのか、また、今後どのような取組を考えてられておられるのかお尋ねします。

○議長（山口昌宏君）

高倉環境部長

○高倉環境部長〔登壇〕

2050年ゼロカーボンシティinたけおの宣言をいたしました。その後、市のホームページや市報で情報発信をしているところでございます。

また、担当課としては、先進自治体の訪問を行い、今後の取組について現在、調査研究をしている状況でございます。

また、今後の方針としましては、市民や企業から幅広く意見やアイデアを募集するために、アンケート調査を実施する予定としております。

今後の取組に向けた実行計画の策定をしていきたいと考えているところでございます。

○議長（山口昌宏君）

6番吉原議員

○6番（吉原新司君）〔登壇〕

ちょっと答弁を聞いておりますと、ゼロカーボンシティとしての取組というよりも、準備、状況の把握というような感じしか受けないんですけれども、ぜひどんと大きな目標を掲げていただきたいと思います。

今回の一般質問で太陽光発電とかプラスチックごみのリサイクル、レジ袋削減とかいろいろ申しましたけれども、ここは全部、ゼロカーボンシティの取組につながる部分だと思いますので、ぜひ目標を、取組を打ち出していただきたいと思います。

以上をもちまして一般質問を終わります。

○議長（山口昌宏君）

以上で6番吉原議員の質問を終了させていただきます。

以上で本日の日程は全て終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。お疲れさまでした。

散 会 12時13分